

高大連携プログラム

～高校と大学の接続を目指して～

2025年度



Hokusei Gakuen University

北星学園大学

北星学園大学短期大学部



北星学園大学 高大連携プログラム

高校や大学は、少子高齢社会という大きな社会変動の中で揺れ動いています。国公立か私立かを問わず、競争と選別という時代の空気の中で、各学校はその特色をどのように打ち出すかを迫られ、多様な試みがなされています。特に注目され、普及してきているものに、「高大連携」の試みがあります。この考え方には、「高大連携」・「高大接続」・「高大一貫」といった考え方が含まれています。中高一貫の考え方を加えれば、6・3・3・4制をもっと流動的・連続的に捉えようとするものになります。

社会に開かれた大学を標榜する北星学園大学は、この高大連携の考え方を「高大連携プログラム」と名づけており、ここには次の二つの理念が含まれています。

一つ目は、「社会に開かれた大学」としての社会貢献の考え方です。大学は、その持てる「知と技」を積極的に社会に提供していくことによって社会的責任を果たすことが期待されています。

二つ目は、次代の大学生たる高校生に、「学び・研究する」ことの喜びの予感を提供することによって、自己の力と志向に基づいた大学の選択が可能になり、大学の教育との相乗的な効果を期待できます。

以上の二つの理念を掲げる「高大連携プログラム」へお誘いいたします。

1 高大ブリッジ講義(出張講義)

大学進学についての選択は、多くの人にとって、社会へ出る前の「学びの成就」の機会を手にするものであり、かつ、社会における自らの活動を基礎づける「知と技」を選び取ることも意味していると考えられます。

そうした大きな人生の選択を、カタログの中の数字だけで決めてしまってよいものなのでしょうか。少なくとも4年という短くはない時間をかけて自らの学びを成就させることとなる「大学」とは、果たしてどういうところなのか。実際に施設・設備を自らの目で確かめ、そこで提供されるプログラムを体験し、既にそこで学びを進めている者の話を聞く、そうした機会も、北星学園大学は積極的に提供してまいりました。

高大ブリッジ講義(出張講義)は、北星学園大学・北星学園大学短期大学部の教員が高校の教室に赴いて、高校生の皆様に、大学での「学び」とはどういうものなのか、大学にはいかなる「知と技」があるのかに触れていただく機会を提供しようとするものです。この高大ブリッジ講義(出張講義)は、高校生の皆様が大学での学びへの憧れを育み、恐れを払う一助となるでしょう。

お申込み方法… 申込用紙(27頁)に希望の講義をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

申込締切: 講義希望日の1ヶ月前

申込用紙: 複数の講義をお申込みの場合は、お手数ですが、申込用紙(27頁)をコピーしてご利用ください。

- 留意事項:
- ①ご希望の日時について、担当教員との調整が必要な場合もございます。ご了承ください。
 - ②担当教員の職務の都合上、ご希望に沿えない場合もございますので、複数の教員についてご希望をお示しいただければ幸いです。
 - ③派遣に係る費用は、全て北星学園大学が負担します。
 - ④毎週水曜日午後は、本学校務(会議等)を原則として優先させていただきますので、派遣できない場合もございます。
 - ⑤ゼミ形式の授業をご希望される場合、申し込みの際にその旨お知らせください。

※なお、ゼミ形式の場合、内容が変更となる可能性がございますので、ご承知おきください。

ゼミ(Seminar)とは? —— 少人数・対話形式(講義を聴くだけの受身の授業ではなく、参加・実践型の授業)

大学の授業は主に講義形式とゼミ形式に分けられます。

講義形式は、一般的に高校の授業と同じように教員が主導して授業が進み、学生側から見れば話を聴く割合が高い形式です。しかし、ゼミ形式では、講義形式に比べると、学生の人数が少なく設定され、あるテーマについてより深い知識を得るための意見交換や討論が中心となります。そのため、2~5人のグループで調べ、話し合いをした結果に対して、他の学生が質問や意見を出し合って学習することも多くみられます。最後には、いろいろな側面から教員がアドバイスをを行いますので、一つのテーマについてより深く理解し、そして広がりのある知識を得ることができるようになります。

※イノベーション・サステナビリティの講義は、2026年4月新設の国際学部グローバル・イノベーション学科(仮称・設置構想中)に所属予定の教員が担当します。

「高大連携プログラム」に関する問い合わせ・申し込み先

入試課

TEL (011) 891-2731 (代表)

FAX (011) 894-8383

MAIL nyushi@hokusei.ac.jp

心理
コミュニケーション

講義番号	テ	マ	担当者名
1	スポーツメンタルトレーニング(実力発揮の方法)		袁内 豊
2	心理学は世界を救えるか? ~心理主義化する社会を考える~		
3	心理学から映画を見よう ~物語を支えるキャラクターたち~		田辺 毅彦
4	高齢者ケアの心理学 ~高齢者心理における心理学の役割~		
5	災害支援の心理学 ~災害後のPTSDとその治療~		阪井 宏
6	手品と情報のフシギな関係 ~スプーン曲げからメディアを考える~		
7	正しい報道って何だろう ~ジャーナリズム倫理を考える~		大島寿美子
8	「病い」「疾患」「病気」の違いは? ~医療コミュニケーション入門~		
9	「自分」と「他者」を知るコミュニケーション技法		後藤 靖宏
10	“コミュカ”を科学する ~ヒューマン・エラーの認知心理学からみたコミュニケーション能力とは?~		
11	“コミュカ”を科学する ~音楽心理学からみたコミュニケーションとは?~		石川 悟
12	他者を理解する ~コミュニケーションの基盤~		
13	「心」とは何か? ~「心」の由来を考える~		柿原久仁佳
14	自信を育てる心理学		
15	自分も相手も尊重するコミュニケーションを考えよう		
16	「聴く」コミュニケーション		
17	心理検査とコミュニケーション		
18	大学の講義「メディアコミュニケーション」を体験してみよう		
19	デジタルシチズンシップとクリティカルリーディング		妹尾 克利
20	SGE実践! 対話で育む自己理解と他者理解		
21	「こころ」と「からだ」の心理学		山本 耕太
22	心理のおしごと ~心理専門職について知ろう~ ※9月以降開講予定		牧田 浩一
23	心へのアプローチ ~大学で学ぶ心理学~ ※9月以降開講予定		
24	(感)情と理(性)		
25	信じる心を科学する		眞嶋 良全
26	心理療法体験 ~描画療法とリラクゼーション法でストレス解消!~		佐藤 祐基
27	友人関係の心理学		村井 史香
28	見えてる?見えてない? 普段気づかない心の仕組みを解き明かす		藤木 晶子
29	見せ方ひとつでこんなに違う! ビジュアルコミュニケーションの基本		川部 大輔

語学・文化

30	異文化コミュニケーション入門		長谷川典子
31	英語の発音法		J.W.ラケット
32	アメリカ演劇の楽しみ ~ブロードウェイミュージカルとアメリカ文化~		高橋 克依
33	外国語(英語)習得を“科学”する ~習得の個人差はなぜ生まれるのか?~		高野 照司
34	「公園で走る」と「公園を走る」はどう違う? ~外国人に対する日本語教育入門~		
35	世界で使われている英語とは? ~「共通語としての英語」という見方~		柳町 智治
36	「若い人ほど外国語習得ははやい」は本当? ~外国語学習の「神話」に迫る~		
37	英語を話せる力とは		
38	英語を英語らしく話そう!		
39	色々な英語の教え方		江口 均
40	いろいろな英語の教え方・学び方		
41	グローバル化と市民社会の役割 ※9月以降開講予定		中地 美枝
42	「マザー・グースの唄」を楽しみましょう!		島田 桂子
43	Culture on the Internet		R.トムソン
44	第二言語習得研究に基づく英語学習法		沢谷 佑輔
45	英文をスキルで捉える		
46	心に染みる英文を読む		竹村 雅史
47	シャドウイングとは?		
48	観光ホスピタリティ産業で英語を使って働く!		森越 京子
49	言語学習における語彙学習の役割と語彙力向上の方法を探る		H.トムソン
50	中国語に親しもう!		
51	中国古典文学<萌え>の世界		山本 範子
52	中国の妖怪・不思議な話		
53	世界一周ことばの旅		
54	日本語と外国語はどこが違う?		
55	チャレンジ ことばの研究		松浦 年男
56	確実に伝えるための説明の技術		
57	日本語ウォッチングで街を行こう		
58	考える/分かりあう ための論理トレーニング		田村 早苗
59	韓国の食文化について理解する ~文化相対主義の観点から異文化理解を深めよう~		申 恩真
60	退屈な芸術? : 古い彫刻を見る		
61	くらべて観れば: 西洋建築と日本建築の鑑賞法		遠藤 太郎
62	モンゴル遊牧民の暮らしと食べ物 ※9月以降は開講せず		風戸 真理

福祉・健康

63	豊かな国でなぜ子供の貧困率が高いのか		
64	「環境問題と社会福祉」		
65	「現代社会とジェンダー」		K.U.ネンシュティール
66	「世代間不公平」は(なぜ)問題か		
67	戦争の関連で社会福祉ができること		
68	「高齢者福祉」を学ぶ現代的意義(進路選択の拡大)		
69	日本の医療制度—どうなっているの?これからどうなるの?		安部 雅仁
70	福祉実践を支える思想 ~ノーマライゼーションから今日まで~		
71	高校生にもできる地域福祉活動の担い手! ~何が出来るだろうか!?~		岡田 直人
72	社会福祉からの地域社会へのアプローチ ~災害から命を救う地域社会を目指して~		
73	SDGsと地域福祉		
74	社会と社会福祉		佐橋 克彦
75	社会福祉学への招待 ~理想の暮らしと社会の姿を考える科学~		
76	幸福は何によって決まるのか ~世界幸福度ランキングを手がかりに~		
77	多文化共生と社会福祉 ~日本の現在と未来~		伊藤新一郎
78	現代における幸福(well-being)論 ~SDGsと社会福祉から考える~		
79	少子化の理由はコレ!じゃあどうすれば?		
80	福祉は“恥ずかしい”?		松岡 是伸
81	現代日本を蝕む貧困		田中耕一郎
82	障害者福祉の考え方		永井 順子
83	こころの病(精神疾患)を理解する		畑 亮輔
84	少子高齢化×人口減少=日本の将来 ~どんな地域になるの?どう生活するの?~		
85	保険証って、なぜ必要なの?		加藤 智章
86	年金はもらえないと思いませんか?		
87	体力向上と日常生活習慣		星野 宏司
88	なぜフィールドワークは楽しいか ~女子サッカー選手の労働と生活を事例にして~		申 恩真
89	ケアすること されること		
90	子どもは誰のもの?		藤原 里佐

Index

経済・経営

講義番号	テ	マ
91	サキヨミの経済学	～ゲーム理論と美人投票～
92	オリンピックを文化経済学で考える	～スポーツの文化経済学～
93	経済学史入門	
94	牛丼とハンバーガー、どちらが大好き	～経営と会計の味な話～
95	あなたの知らない世界	～職業と会計～
96	決算書を読んでみよう	
97	経済学と経営学、何が違うの？	
98	コンビニを通して、購買心理と店内の工夫を探る	
99	コンビニ大解剖！	～商品と歴史について探る～
100	人の移動とお店の立地・数の関係について探る	
101	私たちの身の回りに広がるユニバーサルデザイン	
102	ピクトグラム(絵文字)に隠された秘密に迫る！	
103	お菓子プロジェクトから探る企画プロセスの実際	
104	経営情報学科の学びとまちづくりの意外な関係	
105	ブランドの生き方：人々を幸せにする商品開発	
106	「ソーシャルメディア」と消費者行動、マーケティング	
107	消費者の「生きた経験」とブランド・マーケティング	
108	消費者インサイトが生み出すマーケティングの効果	
109	「H2Hマーケティング」とブランド・マネジメント	
110	サービス科学と情報技術	
111	「日本マクドナルドvs.モスバーガー」に学ぶ経営戦略	
112	「LINE」に学ぶビジネスモデル	
113	家電リサイクル法と経済学	
114	数学を使って、経済問題を解く	
115	未来をつくる資産形成：高校生から始めるNISAとお金の学び	
116	お金の流れを知ろう！「金融政策のしくみ」入門	
117	「お金」になりうるモノとは	
118	もしみんなが「ファイナンシャル・プランナー」になったら	※9月以降開講予定
119	ゲーム理論で読み解く高校世界史	
120	日本の経済学者たち	

担当者名
勝村 務
楠木 敦
大原 昌明
鈴木 克典
韓 文熙
林 秀彦
黄 雅雯
増田 辰良
秋森 弘
南ホチヨル
板谷 淳一
山本 慎平

法律

121	契約・法・北方領土	
122	犬の権利と猫の義務	
123	あなたは覗かれている	～プライバシーの危機～
124	デザイナー・ベビー	～魔法か、それとも悪魔の技術か？～
125	家族における平等	
126	18歳の選挙権	
127	A1と法・倫理	～私たちはA1とどうつき合うか～
128	拷問はなぜ絶対に禁止されるのか	～国際人権法入門～
129	売買契約の考え方	～ローマ法編
130	お金の貸し借りについて	～日常編
131	親子とは何か	～親子法のヒューマニズム
132	災害復興法学のすすめ	
133	卒業後の人生・生活を考えてみましょう	
134	契約法務入門	
135	在学契約で考える学ぶことの意義	
136	ネゴシエーションを体験しよう	
137	お金がない！	
138	高校世界史から法律学への架け橋	
139	法は美しい街づくりの手助けになるのか？	

篠田 優
岩本 一郎
足立 清人
長屋 幸世
竹田 恒規

国際関係

140	平和構築とは何か	
141	世界の子どもの現状	～私たちに何ができるのだろうか～
142	アメリカやイギリスの大学での学び方	～「英語を学ぶこと」と「英語で学ぶこと」～
143	平和学入門	～「戦争の世紀」から「平和の世紀」とするために～
144	身近なものから日本と東南アジアの関係を考える	

野本 啓介
片岡 徹
浦野真理子

イノベーション・サステナビリティ

145	ホスピタリティ産業とイノベーション	
146	旅行者として、サステナブル・ツーリズムについて考える	
147	クロスボーダー社会における外国語ガイドの役割	
148	世界とつながる仕事：通訳者が支えるグローバル社会	
149	Surviving and Thriving when Studying Abroad	
150	Innovation and Life in New Zealand	
151	Indigenous Perspectives on Sustainability and the SDGs	
152	小さな家のイノベーション：日本の住宅デザイン	
153	Internet Marketing Basics	
154	ソーシャル・イノベーションの基礎	
155	プロジェクト型海外研修への誘い	
156	ファッション×教育で社会を変える！CLOAK Project	
157	海外インターンシップの魅力(オンライン)	
158	オンライン国際共修(COIL)で世界とつながろう	
159	Fishburnersの魅力と活用方法	

森越 京子
田中 直子
M.コッター
遠藤 太郎
R.トムソン
西原 明希

教育

160	教育学入門	～子どもから大人まで、人の育ちを考える学問の魅力とは～
161	紛争解決学入門	～身近な人間関係から国際紛争までを扱う学問の魅力とは～
162	地球的に考えて地域で行動する(Think Globally, Act Locally)のために	～高校生ができることとは～
163	「大学の学び」の基礎となる「高校の学び」	～知識を身につける大切さ～
164	アメリカの小学校では、子どもたちはどのように学んでいるのだろうか	～English LanguageとMathを例として～
165	国連の創設に関わったAndrew Cordierが歩んだ道とは	
166	大学の講義「国際教育論」を経験してみよう	
167	未来を創る大切な仕事である学校教員の魅力とは	
168	アメリカの「国際学」のテキストから世界情勢を探究してみよう	
169	北星学園大学の国際教育プログラムの紹介とその魅力とは	
170	高校生にとって「問い」を立てて「探究」をする意義とは	
171	大学で学ぶ意味：社会科学をとおして社会の仕組み・つながりを理解する	
172	大学教育とは何か？	
173	教育におけるテクノロジーの役割：未来の学校はようになる？	

片岡 徹
野本 啓介
楠木 敦
金子 大輔

情報

174	ソーシャルメディアによる新しい「つながり」	
175	コンピュータ動作の仕組み	
176	情報セキュリティ入門	

金子 大輔
佐藤 友暁

その他

177	困難を乗り越えて生きること	～がんで体験者が教えてくれるいのちと人生～
178	フィールドワークの魅力を知ろう	
179	自然とはなんだろう、自然を守るとはということだろう	
180	女性アスリートの月経について社会的観点から考察する	

大島寿美子
寺林 暁良
申 恩真

講義の展開について

- ①講義は45～50分程度を予定しておりますが、とくにご希望があればお知らせください。
- ②1回完結の講義だけではなく、複数回にわたって展開するもの、オムニバス形式のものなどについて、ご希望があればご相談ください。
- ③受講人数には原則制限がなく、少人数でも承りますが、講義の内容によってはお引き受けが難しい場合がありますので事前にご相談ください。
- ④講義の内容や、実施形態などについてご希望があれば、ぜひお知らせください。
- ⑤掲載されていないテーマにつきましても、ご希望があればご相談ください。
- ⑥講義終了後、受講生の皆様の感想をお知らせいただければ幸いです。

心理
コミュニケーション

1 スポーツメンタルトレーニング (実力発揮の方法)

藁内 豊 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

スポーツ場面に限らず、パフォーマンスを最大限に発揮するには自分自身の精神状態をコントロールすることが必要です。この講義では、パフォーマンスの発揮に関連する心理的要因と対処について、特にプレッシャーとリラクスの観点から説明します。また、プレッシャーやリラクスのコントロール方法について、スポーツメンタルトレーニングの技法を紹介しながら、実際に体験してみます。

2 心理学は世界を救えるか？ ～心理主義化する社会を考える～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

ご存知のように、最近では、心理テストなどを使った自己診断や、さまざまな心のトラブルをめぐるTVドラマや映画などに関心が集まっています。そのせいか、カウンセラーなどを始めとする心理臨床職は人気が高い職業となっていて、「トラウマ」や「PTSD」といった言葉は日常会話の中でも普通に使われるようになってきました。でも、このように、何でもかんでも心理学的に社会や人間を理解して、心理学的知識を使えば、世の中はよくなるのでしょうか。我々は幸せになれるのでしょうか。心理学のもたらしたさまざまな問題を考え、その知識をうまく使う方法について考え直してみたいと思います。

3 心理学から映画を見よう ～物語を支えるキャラクターたち～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

毎年、数多くの映画が公開されていますが、人間ドラマだけでなく、アクション、SF、アニメなどさまざまな作品の物語世界を、心理学から読み解いていくと、ふだんと違った楽しみ方ができ、これまで気づかなかった人間関係の視点が得られるかもしれません。具体的には「スターウォーズ」や「鬼滅の刃」といった人気作品や少しマイナーな映画作品も紹介しながら、これらの作品を題材にして、物語と登場人物たちの相互の役割などを通して、映画の中で繰り広げられる心理学的宇宙について分析し、また、この知識が日常生活へも応用できないか、一緒に考えてみたいと思います。

4

高齢者ケアの心理学

～高齢者心理における心理学の役割～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

日本では、2020年には高齢化率28.8%を超え、超高齢社会を迎えました。その間、高齢者を支援するさまざまな施設が数多く作られるようになってきましたが、年を取って、身体が不自由になったり、認知症が始まったりしても、若くて健康な世代にとっては、その身体的な不自由さや心理的な不安がなかなか理解できないものです。この講義においては、高齢者福祉の現状を紹介する中で、高齢者をケアするために心理学に何ができるのか、どうしたら、施設の利用者だけでなく、現場で働く介護スタッフがより快適に過ごすことができるのか、みなさんと共に考えていきたいと思います。

5

災害支援の心理学

～災害後のPTSDとその治療～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

2011年に未曾有の被害を出した東日本大震災では、東北地域を始めとする広範な地域において地震や津波だけではなく、原発事故による放射能被害も含め、未だに十分な復旧ができていないのが現状です。その後も、北海道胆振東部地震(2018年)があり、2019年からは全世界で新型コロナウイルス感染拡大によるさまざまな被害が続き、それでも、人類はこれまで数多くの自然災害を経験してきました。その中で、被災した人々を襲うPTSDを始めとする心理的な問題とはどのようなものなのか、このような問題を克服するためにはどうしたらよいのかを考えてみたいと思います。

6

手品と情報のフシギな関係

～スプーン曲げからメディアを考える～

阪井 宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

あふれるほどのマスコミ情報に囲まれて暮らす私たち。いったいどの情報を、どう取捨選択してよいのか、迷ってしまうことはありませんか。実は私も、情報の大洪水の中で七転八倒している1人です。大学の研究室は新聞、雑誌、本、映像資料の山、また山。地震がきたらどうしよう、と途方にくれつつ、資料は年々増える一方です。すさまじい情報の海でおぼれないために、私たちはどうしたらいいのでしょうか。このところ人気のお部屋掃除の達人に、「情報掃除」を頼む？ いっそのこと、情報をすべて遮断して「孤高の世界」にひきこもる？ 簡単なマジック(特訓中です)を手がかりに、情報過多の時代の生き方を一緒に考えましょう。

7

正しい報道って何だろう

～ジャーナリズム倫理を考える～

阪井 宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

最近のテレビや新聞の報道、ちょっとおかしくない？ そんな不信感が募っている人、いませんか。東日本大震災の被災地で、取材ヘリはなぜ人命救助をしなかったんだろう。事件の被害者のもとへ行って、傷ついた人になぜマイクを向けられるのだろう。このような「なぜ」に、マスコミはこれまできちんと答えませんでした。そんな理由を市民が知る必要はない、と勝手にきたのでしょうか。でもその姿勢が近年の報道不信を生んでしまっているのです。報道の「なぜ」を知ることは、情報の賢い使い手になるための第一歩です。世の中で起こるさまざまな報道事例をもとに、ジャーナリズム倫理について一緒に考えてみましょう。

8

「病い」「疾患」「病氣」の違いは？

～医療コミュニケーション入門～

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

「病い」「疾患」「病氣」はどこが違うのでしょうか？この講義では医療コミュニケーションの立場から、患者・医療者関係や、患者の世界・医療者の世界、医療と文化について考えます。

12

他者を理解する

～コミュニケーションの基盤～

石川 悟 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

皆さんが何気なく使っている「人間」という言葉には、ヒトという動物が生きていく状況が良く表されています。「人」の「間」で生活する私達は、他者なしでは生きることができません。一方で助けとなるはずの他者が、私達に苦しみをもたらすこともあります。そんな他者とのやり取りには、他者を理解する能力が不可欠です。

相手とやり取りを重ねていく場面において、他者を理解するとはどのようなことなのか、心理学の中で明らかになっていることを紹介しながら、他者とのつきあい方／向き合い方を考えてみたいと思います。

9

「自分」と「他者」を知る コミュニケーション技法

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私たちは自分のことを知っているようで知りません。理解しているようで理解しておらず、大事にしているようで大事にしていません。では、自分のことを知り、理解し、大事にするとはどういうことでしょうか。実はそれは他者を知り、理解し、大事にすると同じことなのです。他者とのコミュニケーションの中で自分を知り他者を知る方法を、講義と実習を通して学んでみましょう。

13

「心」とは何か？

～「心」の由来を考える～

石川 悟 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私達はいつも「心」を感じながら日常生活を送っています。では、この「心」と呼ばれるもの、呼んでいるものの正体は何でしょうか？「心」の存在を実感するのは特にどんなときでしょう？見ることも触ることも難しい「心」ですが、でも確かに「在る」と感じられる瞬間があります。

この講義では、「心」の存在が実感できる状況を紐解きながら、私達が普段何気なく感じている「心」とは何か考えたいと思います。同時にヒト以外の生き物にも目を向けて、この「心」がどのように私達ヒトのもとにやってきたのかについても考えを広げていきます。

10

“コミュカ”を科学する

～ヒューマン・エラーの認知心理学からみたコミュニケーション能力とは？～

後藤 靖宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

「先生つい「お父さんっ」と呼びかけてしまった」、「ごめんね」と打とうとして『ごめん』と偉そうなLINEになってしまった」、「スマホだと思ってテレビのリモコンを持ってきてしまった」etc....

誰にでもあるこのような体験は、実は「ヒューマン・エラー」と呼ばれる心理学の重要な研究テーマです。この程度なら笑い話で済みますが、人間関係や生死に関わるような問題となると、ことは重大です。

この講義では、このところとみにその重要性が認識されてきた“コミュニケーション能力”について、ヒューマン・エラーの認知心理学の視点から考えてみます。ネットやスマホの発達で急速にその形が変わってきたと言われる「コミュニケーション」について知り、友達や親子、恋人、そして自分自身を理解する一助にしましょう。

14

自信を育てる心理学

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

皆さんは、自信をもてることがありますか？人はどのようにして自信をもてるようになるのでしょうか。自信がある子どもと自信がない子どもの違いはどのようなことでしょうか。子どもの力を伸ばすには、どのようにしていくことが大切なのでしょうか。

心理学の実験を紹介しながら、自信を育てていくためにはどのようにしていくことが望ましいのか、一緒に考えてみたいと思います。

11

“コミュカ”を科学する

～音楽心理学からみたコミュニケーションとは～

後藤 靖宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

朝起きてテレビをつけ、通学中にiPhoneを聞き、授業が終わったらカラオケに行って、休日には好きなアーティストのライブを楽しむ...。このように考えてみると、私たちの日常生活には音楽が溢れていることに気づきます。あまりにも当たり前なことなので普段あまり意識しませんが、意識しないからこそ、音楽との関わり方を知ることが重要なのです。

“コミュカ”について科学的に考えるとき、音楽とのこうした関わりも重要な要素になってきます。

音楽を心理学的に捉えることで、いかに私たちが音楽によるコミュニケーションに助けられているかが分かるでしょう。なぜ音楽に好き嫌いがあるのか、どうすればイベントや映像作品で音楽を効果的に使えるようになるのか、勉強に音楽を有効活用するには？等々、面白いテーマにつながる「音楽とコミュニケーション」について考えてみましょう。

15

自分も相手も尊重する コミュニケーションを考えよう

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

この講義では、「アサーティブ」なコミュニケーションについて学びます。相手を尊重しながら、自分の気持ちを伝え、お互いを尊重するコミュニケーション方法を身につけることで、見えてくるものが変わってくるかもしれません。アサーティブなコミュニケーションのトレーニングが必要とされるようになった歴史や、現在の活用状況も合わせて学びます。

心理
コミュニケーション

16

「聴く」コミュニケーション

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

これまで、誰かに話をしている時に、「話しやすい」相手だと感じたことはありませんか？コミュニケーションは、情報を発信することに重点をおかれがちですが、「聴く」ことも大切なコミュニケーションです。どのような聴く姿勢であると、より良いコミュニケーションにつながるのでしょうか。

この講義では、演習を通して、「聴く」姿勢の大切さを学びます。

20

SGE実践! 対話で育む自己理解と他者理解

妹尾 克利 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

この講義は、構成的グループエンカウンター (SGE) を通じて、自己理解や他者とのつながりを深める体験型の講義です。SGE は、参加者同士の対話やアクティビティを通じて、感情の共有や自己表現を促進し、チームワークやコミュニケーション能力を高める教育手法です。普段意識しない自分の価値観や考え方を見つめ直し、他者をより深く理解することで、より豊かな人間関係を築くヒントを探ります。

17

心理検査とコミュニケーション

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

心理検査 (心理テスト) をしたことがありますか？この講義では、心理学や心理検査についての概略を説明した後、簡単な心理検査をもとに、自分はどのようなタイプなのかを考えます。

そして、他者との交流にはどのようなパターンがあるのかを学びながら、自分の他者との交流パターンには、どのような特徴があるのか、どのようにしていくとより良いコミュニケーションになるのかを考え、自分についての理解を深めていきます。

21

「こころ」と「からだ」の心理学

山本 耕太 (文学部心理・応用コミュニケーション学科専任講師)

私たちは、生まれてから色々なものに触れ、感じて、「こころ」と「からだ」を育ててきました。友人や家族とのコミュニケーションの問題や、日々の生活や勉強の悩みなど、見えにくい私たちの「こころ」の問題は、実は「からだ」を通して見ることで見え方が変わったりすることがあります。なぜなら、これらの活動は全て、みなさんの「からだ」や「運動」を通して行われるからです。その面白さを体験しながら、私たちの「こころ」と「からだ」の仕組みを一緒に考えてみましょう。

※9月以降開講予定

18

大学の講義「メディアコミュニケーション」を体験してみよう

妹尾 克利 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

私たちは日々、テレビや SNS、動画配信サービスなど、さまざまなメディアに囲まれて暮らしています。この講座ではメディアの歴史の変遷を振り返り、マーシャル・マクルーハンの理論をもとにメディアの本質に迫っていきます。そして、青少年の AI の利用実態を心理学的な観点から調査した論文を読み解きながら、AI 時代におけるメディア環境の変化や、その可能性と課題について考察します。

カメラ機能付きの端末またはスマートフォンを使用したグループワークを行います。

22

心理のおしごと

～心理専門職について知ろう～

牧田 浩一 (社会福祉学部心理学科教授)

本講義は、「大学で心理学を学んでみたい」、「公認心理師や臨床心理士の資格を取って心理専門職に就きたい」という高校生の疑問に応える内容となっています。小中学校や特別支援学校のスクールカウンセラー、虐待を受けた子どもへの心のケアなど、講師が経験した心理の「おしごと」から、どうしたら心理専門職になれるのか、心理専門職になるために知っておくべきことなど、心理学に関心のある高校生に知ってもらいたい心理専門職の基本知識をお話します。

※9月以降開講予定

19

デジタルシチズンシップとクリティカルリーディング

妹尾 克利 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

学習は本来、社会的相互作用を通じて進んでいきます。この講義では、インターネット上での適切なコミュニケーションや情報発信の責任を理解する「デジタルシチズンシップ」について学んだあと、小グループによる課題解決型ワークショップによって、メンバー同士で協力し合いながら学習心理学の理論の一つである発達最近接領域 (ZPD) を実践的に体験します。

カメラ機能付きの端末またはスマートフォンを使用したグループワークを行います。

23

心へのアプローチ

～大学で学ぶ心理学～

牧田 浩一 (社会福祉学部心理学科教授)

心は目にも見えないし、形があるものでもありません。そのような心をどのようにしたら知ることができるのでしょうか。

「心理学」は、学問としての歴史は他の学問領域に比べて新しい学問です。今日の「心理学」は、19世紀後半から始まりました。同時に2つの流れが生まれました。心を「物理学」を模範にして捉えようとした流れと心を病んだ患者さんへの実際的な手助けから生まれた流れです。

本講義では、「心理学」がどのようにして、目にも見えない形もない「こころ」を捉えようとしたのかをテーマとしたいと考えています。

24

(感)情と理(性)

眞嶋 良全 (社会福祉学部心理学教授)

一般に、感情のままに(あるいは直観的に)動くことは、理性を欠いた、しばしば良くない結果をまねく行動であるとされています。一方で、理性的な行動は、そのような感情を抑え、いろいろな可能性を考慮に入れた合理的で意識的な行動であり、より正しい結果に近づくことを意図したものであるとされています。

しかし、本当にそうなのでしょうか。最新の心理学の研究からは、どうやらそう単純な話ではないということが明らかになっています。

この授業では、感情と理性がどのように人の行動を決めているのか、理性的な行動は本当に合理的なのか、感情と理性はどのように協調または牽制しあうのかといった問題を考えていきたいと思えます。

25

信じる心を科学する

眞嶋 良全 (社会福祉学部心理学教授)

私たちは、日々いろいろなものを信じたり、あるいは逆に疑いながら生活を送っています。何でもかんでも疑ってかかるのは良くありませんが、一方で、何の疑いももたずすぐ信じる、ということは騙されやすいということであり、詐欺にひっかかるなどの経済・心理的損失に繋がる可能性を秘めています。

この講義では、人はなぜ、どのように信じるのかについての心の仕組みを、具体例を交えながら考えてみたいと思えます。

26

心理療法体験

～描画療法とリラクゼーション法でストレス解消!～

佐藤 祐基 (社会福祉学部心理学准教授)

スクールカウンセリングや心理相談室の現場では、どのような心理療法が行われているのでしょうか。

この講義では、一般には、知られることのない心理療法の世界を体験してもらいます。子どもから大人まで楽しめる「スクイッグル法」という描画療法と、身体を使った「筋弛緩法」というリラクゼーション法を実施します。心理療法の前後に、ストレスの得点を測定して、心理療法の効果について実験的に検証してみたいと思えます。

27

友人関係の心理学

村井 史香 (社会福祉学部心理学専任講師)

思春期は、親や先生との関係に加え、友人関係が特に重要になる時期です。気の合う友人との交流は楽しく、不安や悩みを共有することで心の安定にもつながります。一方で、友人からどう思われるかが気になったり、友人グループから外れることを恐れたりすることもあるでしょう。時には、「友人とは何だろう…」と考え込むこともあるかもしれません。

本講義では、思春期の心の発達という視点から、友人関係について考えていきます。

28

見えてる?見えてない? 普段気づかない心の仕組みを解き明かす

藤木 晶子 (短期大学部生活創造学科准教授)

私たちは、毎日「モノを見て」暮らしています。朝起きたら、鏡で自分の顔を見る人もいるでしょう。学校に来たら、教科書を見る人もいるでしょう。このように色々なモノを見ながら、とくに不自由なく暮らしている人がほとんどだと思います。しかし、それ故に外界の世界はすべて見えていると思っていないでしょうか?

実は、そうではないのです。私たち人間はすべてを見てはいません。それに関わらず不自由に感じることはないはずで、では、何が見えていないのか?何を見ているのか?本講義では、人間に備わる高度認知機能の一端を、実習を交えながら解き明かします。

29

見せ方ひとつでこんなに違う! ビジュアルコミュニケーションの基本

川部 大輔 (短期大学部生活創造学科教授)

グラフィックデザインの目的は見た目をただ格好良くすることではなく、情報を速く・強く伝えるために視覚的な要素を駆使することにあります。

ビジュアルコミュニケーション(視覚伝達)の基本がわかれば、自分が伝えたいメッセージがメディア(媒体)を通して相手により的確に届くようになります。

具体例を見ていながら、「伝わるデザイン」とはどのようなものか考えてみましょう。

語学文化

30

異文化コミュニケーション入門

長谷川 典子 (文学部英文学教授)

英語ができれば国際人になれる...と誤解していませんか?この講義では異文化間で起こる誤解やすれ違いの例をもとにしながら、異文化の人々とのコミュニケーションの障壁となる要因について考えてみたいと思えます。

受講生の皆さんには講義を通して、自分たちが「普通」や「常識」と考えている行動や考え方が実は日本というフィルターを通して作られたものであること、世界の人々もみな同じように自文化のフィルターを通して世界を見ていることを理解し、言葉や文化の違いを超えて様々な人々が共生している国際社会で橋渡しとして活躍できるような国際人になるために必要なことは何かについて自分なりの答えを出してもらえればと思えます。

31

英語の発音法

J.W.ラケット (文学部英文学教授)

英語でコミュニケーションをするのにネイティブの発音は必要ではありません。しかし、英語の発音の基本的なスキルを身につけると、相手があなたの英語をより理解します。

この講義の目的は英語の発音の基礎を紹介することです。

Part I : 英語の母音

Part II : 英語の子音

語学文化

32

アメリカ演劇の楽しみ

～ブロードウェイミュージカルとアメリカ文化～

高橋 克依 (文学部英文学科教授)

ミュージカルはアメリカで発達した芸能とされています。台詞の他に歌やダンスを取り入れた演劇で、20世紀に大いに発展を遂げ、アメリカ演劇を語る際になくてはならないものとなっています。

この講義では、日本でも多くのファンを持つブロードウェイミュージカルをとりあげて、アメリカ演劇の世界の一端にふれていただきます。大都市ニューヨークでミュージカルはどのように演じられているのか、どのように評価されているのか、など、高校生にもわかりやすく話をし、英文学科での講義の一部を体験してもらいたいと思っています。

36

「若い人ほど外国語習得ははやい」は本当?

～外国語学習の「神話」に迫る～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

外国語学習については、科学的根拠のない「神話」が人々の間に広まっています。たとえば、「若い人ほど外国語習得ははやい」ということがよく言われますが、これも「神話」の一つです。言語研究者の間では、むしろ「older is faster」、つまり、「年令が上の人の方が習得のスピードがはやい」というのが定説になっています。また、「赤ちゃんがそうであるように、何も意識せずにただCDを聞き流すだけで外国語が習得できる」という教材の広告も見かけますが、これも研究成果に照らすと正しいとは言えません。

この講義では、言語習得についての研究成果を皆さんに紹介しながら、外国語学習をめぐる「神話」に迫っていきたいと思います。

33

外国語(英語)習得を“科学”する

～習得の個人差はなぜ生まれるのか～

高野 照司 (文学部英文学科教授)

日本での英語学習は、(最近始まった小学校での英語学習を除いて)通常、中学入学時(13才)から始まり、ほぼ同じカリキュラムに従って同じ時間数の授業をこなし、高校へと継続されます。しかし、スタート地点が同じで、学習内容や時間数にそれほど大差がないのに、どうしてこれほどまでに習熟度の個人差(英語の得意・不得意)が生まれるのでしょうか。

本講義では、英語学習の個人差が生まれる要因について、「外国語習得理論」に基づいて考えます。グループ討議および発表の時間を設け、参加型の講義にしたいと思っています。

37

英語を話せる力とは

江口 均 (文学部英文学科教授)

英語が話せるようになりたいと思っている日本人はたくさんいます。しかし、英語学習で成功した、と胸を張って言える人はそういません。また、たくさん単語は覚えただけ、話すとなるとダメだという人も多くいます。言葉を話す、人とコミュニケーションを取るというのは単語と文法を知っていても出来ないということです。それでは、日本人にとって英語を話せるようになるためには何を学び、何を出来るようになるべきか、コミュニケーション能力とはどういうことなのかを学んでもらうのが講義の目的です。

34

「公園で走る」と「公園を走る」はどう違う?

～外国人に対する日本語教育入門～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

皆さんの中には将来、海外で働きたいと思っている人もいます。外国人に対する日本語教育という仕事は、そうした夢をかなえる一つの方法です。また、日本語を教えることを通じて、日本語を見つめ直すことができるのも、日本語教育の魅力です。

さて、もし皆さんが外国人から「『公園で走る』と『公園を走る』はどう違うのか」と聞かれたら、どう答えますか。むずかしいですよね?日本語を母語として獲得すると、日頃、日本語の文法や用法を意識しませんが、日本語教師になったら、こういう質問にも答えられないといけません。

この講義では、私たちが日頃、何気なく使い分けている日本語表現を例として取りあげ、日本語教育の奥深さ、魅力について紹介します。

38

英語を英語らしく話そう!

江口 均 (文学部英文学科教授)

英語を英語らしく話すということは一つ一つの音の出し方を正確に学び実践するということも大切ですが、文やフレーズを固まりとして捉えることも大切です。また、何となくこんな感じと言うような捉え方も大切です。また、外国語の発音を覚えるには今の自分の殻を打ち破ることも大切です。そのように英語を英語らしく話せるようになるコツを伝授します。

35

世界で使われている英語とは?

～「共通語としての英語」という見方～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

世界の人口約80億の中で英語を母語とする人はそれほど多くありません。だいたい4億人弱で、世界の人口の約5%にすぎません。現代の国際社会では政治、経済、文化等の分野で英語が共通語となっていますが、そこでは、ネイティブの人の英語ではなく、英語を第二、第三言語として使っている人たちの英語が多数派を占めています。インドの言語、中国語、アラビア語、スペイン語に影響を受けた英語など、ネイティブでない人々の英語が世界で広く使われているのです。このような見方に立つと、私たちが他国の人と交流していくために、どのように英語の学習と向き合っていくべきかということが自ずと見えてきます。

この講義では、「共通語としての英語(English as a lingua franca)」という視点から、21世紀の英語学習について皆さんといっしょに考えていきます。

39

色々な英語の教え方

江口 均 (文学部英文学科教授)

英語の教授法というのは20世紀科学の進歩とともに様々な方法が生まれました。現在の日本でもいろいろな教え方が実践されています。しかし、自分が教えられた方法以外あまり経験するものではありません。教え方の違いはなぜ生まれるのか、その違いで英語に対する認識や技能にどのような違いが出るのか、授業の中で体験しながら考察してもらいます。

40

いろいろな英語の教え方・学び方

江口 均 (文学部英文学科教授)

日本人は「英語ができない」とよく言われますが、決して能力がないわけではありません。しかし、教え方、学び方が間違えている、自分にあってないとすると、できないのも仕方ありません。自分にあった学び方をするには、どういうものがあるのかを知る必要があります。

この講義では、英語教授法、学習法を提示し、様々な方法があるということを知り、これまでの学習法を見直してもらう、ということを目指して行います。

44

第二言語習得研究に基づく英語学習法

沢谷 佑輔 (経済学部准教授)

どのように第二言語(外国語)が身についていくのか、そしてどのような学習方法が効果的かを研究する分野として第二言語習得論というものがあります。この分野で多くの研究者が示してきた研究の成果は、私たちがいかに効率的に英語を学習できるかに関して多くのヒントを与えてくれています。

本講義では、日頃の英語学習に対してみなさんが抱えているかもしれない疑問やよく聞く噂が正しいのかを第二言語習得論で明らかになっている研究成果を用い、できるものは実際に体験してもらいながら一緒に考えていきます。これを期に日頃の自分の英語の学習方法を見直してみましよう。

※9月以降開講予定

41

グローバリゼーションと市民社会の役割

中地 美枝 (文学部英文学科教授)

グローバリゼーションと聞いて、皆さんは何を想像しますか? 留学や旅行のために自由に海外に行けること、インターネットを使って海外の人とすぐに連絡が取れること、世界中で日本車が走っていること、などが思い浮かぶかもしれませんが。これらはグローバリゼーションの利点と考えられます。しかしグローバリゼーションは貧富の差の拡大、文化の衝突、地方の文化・言語・風習の消滅などの様々な問題も引き起こしています。

市民社会の活動の多くは、グローバリゼーションがもたらす負の影響の改善を目指すものです。本講義では、グローバリゼーションの性質を理解することと併せて、市民社会の活動がどのようにその問題の改善を図ろうとしているのかを、具体的な事例に基づき考えます。

45

英文をスキルで捉える

竹村 雅史 (短期大学部英文学科教授)

英文を深く味わう場合と英文を情報として捉える場合では、自ずとその英文に対するアプローチは異なってきます。英語学習を技能教科として見なせば、そのスキルを高める練習を積むことで、英語をより自分のものにすることができます。

この講義は、初めて目にする英文を Scanning, Skimming, Thinking Skills 等のスキルを実際に使って、英文に対する心構えを養うことを目指します。(主に演習の形式をとります)

42

『マザー・グースの唄』を楽しみましょう!

島田 桂子 (文学部英文学科教授)

『マザー・グースの唄』は、数百年もの長い歴史の中で、親から子へ、子から孫へと歌い継がれてきたイギリスの伝承童謡です。『マザー・グースの唄』は、実はシェイクスピアの作品からビートルズの歌詞に至るまで、幅広く英語文化に影響を与えてきた〈文化のゆりかご〉なのです。

そんな『マザー・グースの唄』のいくつかを一緒に味わってみませんか? 数え唄や早口ことば、なぞなぞなど、楽しくてちょっぴり不気味な内容の唄を音読しながら、ユーモア溢れるイギリス文化を味わいましょう。

46

心に染みる英文を読む

竹村 雅史 (短期大学部英文学科教授)

心に残る英文を読んだことがありますか? 英語を勉強していて良かったと感じる瞬間を皆さんと一緒に味わってみたいと思います。英文講読とは大げさですが、英文をかじった人であれば、どなたでも感動できます。みなさんと一緒に英語を通して心に残る英文を味わってきましょう。

43

Culture on the Internet

R.トムソン (文学部英文学科准教授)

I research about social network sites (SNS) like Facebook, Twitter, and Line. In particular, I investigate how people from different countries behave on SNS. Did you know that Japanese people are more concerned about privacy on SNS than people from the United States? Also, people in the United States show off on SNS more than Japanese. Why is this the case? In my research I try to 1) identify differences and 2) explain those differences.

47

シャドウイングとは?

竹村 雅史 (短期大学部英文学科教授)

シャドウイングとは、聴こえてくるスピーチに対してほぼ同時にあるいは一定の間をおいてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為です。これは、自分の声を出してリピートし、同時にリピートしながら自分の声も聴くので、すなわち、だまって聴いている時と比べ、3つの作業を同時進行させているわけで、3倍の集中力が働いていることになるわけです。今回は、このシャドウイングを活かして、リスニング力とスピーキング力の両方を身に付けることができる3つのシャドウイングの技法を体験します。その3つとは、complete shadowing、selective shadowing、interactive shadowing です。では、みなさん、一緒にやってみましよう!

語学・文化

48

観光ホスピタリティ産業で英語を使って働く!

森越 京子 (短期大学部英文学科教授)

英語は、コミュニケーションのツール (道具) と言われて何年もたちますが、英語は、私たちの視野を広げ、様々な国々や文化を理解し、多様な人々とつながるために大切なものです。また、英語力は、仕事にもいろいろなチャンスをもたらします。

この講義では、将来の仕事と英語力について、観光ホスピタリティ産業で必要とされている英語について学びます。

52

中国の妖怪・不思議な話

山本 範子 (文学部教授)

古来中国では、怖い話や不思議な話がたくさんありました。妖怪・化け物・幽霊...。そういったモノを通して、中国の文化を学び、現在に通じる様々なコトについて考えてみましょう。

49

言語学習における語彙学習の役割と語彙力向上の方法を探る

H.トムソン (短期大学部英文学科准教授)

コミュニケーションは、言葉を使い、理解する能力によって制約を受けたり、拡大したりします。したがって、語彙の知識はコミュニケーションのための構成要素を提供すると言ってもよいでしょう。研究によると、英語で最もよく使われる 2000~3000語の知識は、理解のための非常に良い基盤となることがわかっています。

そこで、短大英文学科では、1年生のうちにこの基礎知識の強化に力を入れています。語彙力は、他の言語の授業での学習をサポートし、2年目に英語でコンテンツの授業を受けるためのベースとなります。短大で使われている語彙学習の方法やツールを紹介し、参加者には実際に試してもらいます。

53

世界一周ことばの旅

松浦 年男 (文学部教授)

外国語学習には時間をかける必要がありますが、ちょっと覗くだけでも簡単にできます。

この講義では世界で話されている様々な言語の中から 3 つほど取り上げ、音声、文字、文法の解説を行い、簡単な練習問題に挑戦します。もちろんこの講義だけでその言語を理解することはできませんが、これらの作業の中で日本語との類似点や相違点に注意を向けることによって、言語の多様性や共通性といったものに対する理解を深めると同時に、外国語というものに対するなじみを持つようになることでしょ。

50

中国語に親しもう!

山本 範子 (文学部教授)

日本の漢字とは異なる中国語。「新聞」は中国語では「ニュース」の意味です。発音や日中比較などを通して、中国語に触れてみましょう。簡単なあいさつや歌も練習します。

54

日本語と外国語はどこが違う?

松浦 年男 (文学部教授)

世界には 7000 あまりの言語がありますが、多くの人が触れるのはほんの 2~3 個程度です。この 7000 ある言語を眺めたとき、日本語はほかの言語とどこが共通し、どこが違うのでしょうか? これを知るには意味や音に見られる言葉のしくみ、すなわち文法に目を向けることが有効です。

この講義では様々な作業を通して文法というものを体感できるようにし、その上で日本語と外国語を比べることで、外国語の学習やより高度な日本語の運用の基礎となる「ことばに対する感覚」に気づくことを目指します。

51

中国古典文学<萌え>の世界

山本 範子 (文学部教授)

日本だけでなく、中国にも <萌え> があります。古典文学における <萌え> のツボって? 様々な小説を紹介しながら、現代にも通じる中国古典文学の面白さを考えていきます。

55

チャレンジ ことばの研究

松浦 年男 (文学部教授)

研究ってとても応用的で難しいものだという印象があると思います。もちろん厳密にやろうとするとどうしてもハードルは高くなりますが、ちょっとやってみる、体験してみるというものならすぐにできるものもあります。

この講義では「気づいていない日本語の仕組み」をテーマに、座学はそれぞれ受講生が実際に言葉のデータを集め、その場で簡単な分析をします。講義を通じて、研究活動の流れや考え方を理解するきっかけ作りや、日本語や英語などをより客観的に見つめることを促します。

56

確実に伝えるための説明の技術

松浦 年男 (文学部教授)

例えばスーパーなどで買い物して店員に「有料のレジ袋にお入れしてよろしいですか」と聞かれたとき「大丈夫です」と答えたとしましょう。さて、これは「入れていい」のか「入れてはいけない」のかどちらでしょうか？私たちは何も意識しなくても話せば伝わったような気持ちになりますが、意図がうまく伝わらないという経験は誰もが持っていると思います。

この講義では、様々な事例や作業を通して「通じないこと」について考えていくことを通じて、説明について考えるきっかけとなることを目指します。

60

退屈な芸術?:古い彫刻を見る

遠藤 太郎 (短期大学部生活創造学科教授)

古く、大きな美術館にはたいてい幾つか並んでいる大昔の彫刻達。色鮮やかで美しい絵画と比べ、今ひとつ取っつきにくい全裸や半裸の石像達は、一体、見る人達に何を訴えかけているのでしょうか？

どれもこれも似たように見える彫刻達ですが、そのポーズ、表情、身なりを分析していくと、幾つかのパターンを見つけることができます。そして、それらのパターンを通して、時代毎の美意識や社会背景の違いを明らかにすることができます。

退屈だった彫刻コーナーを、新しい眼で見直してみませんか？

57

日本語ウォッチングで街を行こう

田村 早苗 (文学部准教授)

街を歩くといろいろな日本語が目飛び込んできます。看板やお店のメニュー、注意書き、ポスター……わざわざ本や新聞を開かなくても、私たちの日常には日本語があふれています。中には「あれ、おかしいな？」と違和感を覚えるものも。

この講義では、街角のいろいろな「ちょっと変？」な日本語を入り口にして、日本語について考えてみます。その入り口は、日本語が持っているちょっと不思議な特徴につながっていたり、教科書には書いていない(でもみんな使いこなせる)「文法」につながっていたり、「うまく伝えるとは」という少し大きな問題につながっています。一緒に街角から日本語の世界をのぞいてみましょう。

61

くらべて観れば:西洋建築と日本建築の鑑賞法

遠藤 太郎 (短期大学部生活創造学科教授)

皆さんは旅へ出た時、何を観るでしょうか。自然の風景やその町のお祭り、博物館や美術館を観ることも多いでしょう。それと同時に、その町の歴史的な建物を見ることも多いと思います。建物や町並みは、移動可能な絵画や彫刻、イベント等とは異なり、その場に行かないと経験できないものだからです。

本講義では、そのような歴史的な建物の鑑賞の仕方を、西洋と日本のスタイルの違いに着目しながら学びます。さらに、建物の形の違いに現れた、西洋と日本の生活の違い、美意識の違いも学びます。

※9月以降は開講せず

58

考える／分かりあう ための論理トレーニング

田村 早苗 (文学部准教授)

考えがまとまらない、伝わらない、分からない——すこし複雑な問題や内容を扱おうとすると、こんな悩みをもつことはよくあります。そんな時のガイドとして、「論理」を知っておくことが役に立ちます。論理は小難しいものではなく、何かを考えたり、考えを共有したりするときによく使う方法や、よくある間違いについてのノウハウがまとめあげられたものと見れば、誰にとっても有用なものと言えるでしょう。

本講義では、論理トレーニング入門編として、いくつかの論理クイズを考えてみたいと思います。言葉だけではなく図や絵も使って、いろいろなやり方で考えを整理し共有する方法を練習しましょう。

62

モンゴル遊牧民の暮らしと食べ物

風戸 真理 (短期大学部生活創造学科准教授)

モンゴル高原には、家畜を育ててその畜産物を利用して暮らす遊牧民が暮らしています。

私はモンゴルの遊牧民の家にホームステイして、約500日間遊牧民と一緒に暮らしながら彼らの生活技術を調査研究してきました。遊牧民の子どもは、家畜を飼う仕事をしている両親のもとで育ちつつ、町の学校に通っていました。

この講義では、モンゴル遊牧民の例をとおして、日本と異なる生活・食事・子どもの育ち方を学びます。そして、異文化の人のびとが私たちと同時代を生きる隣人であることを理解することをめざします。

59

韓国の食文化について理解する ～文化相対主義の観点から異文化理解を深めよう～

申 恩真 (経済学部准教授)

皆さんは、韓国ドラマを見たことがありますか。韓国ドラマを視聴したことがある方なら、ドラマの中で俳優が食事をとるシーンを見て、韓国の食文化が日本の食文化とは違いがある点に気づかれたかもしれません。たとえば、日本では主に箸を使って食事をとりませんが、韓国では、箸とスプーンをセットにして食事をとりますよね。また、その置き方も、日本では横にしておきますが、韓国では縦にしてお茶碗の右側におくのがマナーです。

本講義では、このような両国の食文化の違いを、自国の風習を基準にして捉えるのではなく、他国の人のびとの風習に即して理解する態度を学ぶことを目指します。文化相対主義の観点から韓国の食文化を学ぶこと、つまり、異文化を自文化の基準にして成否を問い、比較したり、優劣をつけたりする過ちを犯さないための姿勢について一緒に考えていきます。

63

豊かな国で なぜ子供の貧困率が高いのか

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

現在多くの OECD 加盟国において子供の貧困率が上がる傾向があり、日本もその例外ではありません。その背景も、多かれ少なかれどこでもほぼ同じで、主に非正規雇用の拡大と離婚の増加を背景に貧富の格差が広がる傾向が強まっています。国によってかなり異なるのは、それに対する社会政策です。

本講義では、非正規雇用の拡大などの背景、子供の貧困と高齢者の貧困との関係、貧困連鎖のメカニズム等についてわかりやすく分析・説明します。

福祉・健康

64

「環境問題と社会福祉」

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

地球温暖化に代表される環境問題は近年、議論されることが多くなりました。ゴミや排気ガスについては、私たちの日常生活との関連性が明らかですが、環境問題として意識されているものと社会福祉との関連性はそうでもないと思われまます。しかし、国内外で一般的に傷つきやすい (vulnerable) と思われる人々、つまり経済的立場、健康状態・年齢、教育機会の不足などの理由で「社会的弱者」とされる人々は、環境悪化の影響を受けやすい状況におかれています。その背景と根拠を明らかにしていきたいと思ひます。

68

「高齢者福祉」を学ぶ現代的意義 (進路選択の拡大)

安部 雅仁 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

日本では、高齢化が進む中で経済・社会のあり方が大きく変わりつつあり、これに対応しうる労働力 (人材) の育成と確保が求められています。具体的には、高齢者の福祉と医療に限らず、民間企業や公的機関も「高齢社会にいかに対応するか」が重要課題になっています。民間企業 (住宅・リフォーム、薬局・製薬、旅行代理店、家具・福祉用具、金融・保険、百貨店・スーパー、自動車、教育やファッション等に係る企業) は、絶対数で増加する高齢者のニーズを踏まえた経営が必要とされます。国家・地方公務員も、高齢社会に対応しうるセンスや能力が求められます。現代では、高齢者福祉の制度と実践 (実習) に加え、広く経済・社会・法律を学びながら「福祉マインド」をもつことが、進路選択にとって大きな意義と可能性をもつこととなります。

65

「現代社会とジェンダー」

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

近年、「ジェンダー問題」はSDGsの関連でも日本で特に注目されるようになりましたが、「ジェンダー」は「女性の不利」に関する話であると思われがちの傾向が相変わらず続いています。しかし、「ジェンダー」とはそれを中心的に指すものではありません。男性が非常に不利になっているところもありますし、また、あらゆる性的マイノリティが差別されることが最も多いのです。ジェンダー化された社会の特徴を、具体例によって皆さんと一緒に確認した上で、ジェンダーの再生産のメカニズムと、ジェンダー意識の根拠について共に検討していきたいと思ひます。

69

日本の医療制度—どうなっているの? これからどうなるの?

安部 雅仁 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

日本では、1961(昭和36)年に「国民皆保険」が導入されました。これが広く定着する中で「受診機会の平等」が基本的には保証され、長寿社会や長い健康寿命、低い乳児死亡率といった点で一定の成果も得られています (海外からも高く評価されています)。

一方、医療費が増加する中で医療保険財政の赤字が拡大し、これが制度の持続 (可能) 性を低下させる要因にもなっています。主な検討課題として、長い平均在院日数、高額な薬剤費と医療機器、医師・医療機関の地域間格差、高齢者医療費の財源調達等があげられています。少子高齢化と経済の低成長が長期的トレンドと予測される現代において、医療制度改革は重要課題の一つに位置づけられています。

この講義では、新しい動向を整理しながら、日本の医療制度の内容と改革の方向について考えます。

66

「世代間不公平」は (なぜ) 問題か

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

少子高齢化が進むにつれ、若い世代の負担 — 特に年金、医療費などの社会保障費という形での経済的負担、そして介護などのサービスという形での物理的負担 — の一層の増大が多く話題になっています。従来は、親が子供を育てるために負った経済的・物理的な負担の「お返し」として、子供が大人になってから高齢の親 (お代) をサポートするということが、「自然な」ものとして世代間公平と見なされてきました。この定型の崩れをもって「世代間不公平」として問題にすべきかどうか、また、問題にするならばどの観点から「問題」であると言えるのかについて、考えてみます。

70

福祉実践を支える思想 ~ノーマライゼーションから今日まで~

岡田 直人 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

北欧でノーマライゼーションの思想が誕生した歴史的背景を主に紹介します。今日では、その思想は日本を含め全世界に拡がり、発展し、ソーシャルインクルージョン (社会的包摂) に至っています。

その経緯とこれからの地域や生活における社会のあり方にも触れます。そのなかで、日本における糸賀一雄氏の福祉の思想についても紹介します。

67

戦争の関連で社会福祉ができること

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

戦争が起きた際の社会福祉の課題は何かと聞かれれば、子供や高齢者を守る、被害を受けた人々を物質的・精神的にサポートをするということが直ぐに思い浮かびます。しかし、それだけではありません。1968年に開催された国連国際会議において、社会福祉は平和の保障の手段と位置付けられています。戦争は人間を少なくとも二つの集団に分け相手側のデ・パワーメントを目指すものであるのに対し、社会福祉は人間の共通性に基づいて可能な限り多くの人のウェルビーイングやエン・パワーメント、相互の助け合いやサポートを目的としています。この矛盾・対照性の観点から、戦争に直面する社会福祉の課題を皆さんと一緒に改めて考えたいと思ひます。

71

高校生にもできる地域福祉活動の担い手! ~何ができるだろうか!?!~

岡田 直人 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

日本の社会保障制度の脆弱化、地域社会の人間関係の希薄化が社会的に関心をもつようになり、社会福祉は変化してきています。そのなかで地域福祉が社会福祉の主流となり、地域住民と行政などと協力しての地域福祉活動がますます求められています。そこでこの講義では、高校生にもできる地域福祉活動の担い手として、何ができるのかを受講生に考えてもらう内容となっています。

72

社会福祉からの地域社会へのアプローチ

～災害から命を救う地域社会を目指して～

岡田 直人 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

私たちが住む身近な地域社会において、社会福祉はどのような役割を担うことができるのかを学びます。社会福祉は、高齢者・子ども・障がい者等、対象者別にこれまでは支援してきました。しかし、これらの者はみな地域社会に住んでいます。また、同じ屋根の下で、福祉の支援が必要な高齢者・子ども・障がい者が暮らしていることも少なくありません。そこで、これらの者をすべて対象とする社会福祉の発想として地域福祉についてその考え方と方法について学びます。その際、災害から命を救うことができる地域社会に向けての取り組みやノウハウを紹介します。

76

幸福は何によって決まるのか

～世界幸福度ランキングを手がかりに～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

毎年3月に、国連と米国の大学が共同で世界幸福度ランキングを発表しています。日本の順位は先進7カ国(G7)で最低です。なぜこのような結果になっているのでしょうか？日本はGDP(国内総生産)では世界第3位ですが、それが必ずしも高い幸福度の実現には寄与していないことがわかります。一方で、西欧や北欧の国々の多くは、(GDPでは日本より下位でも)幸福度において日本よりも高い順位になっています。

本講義では、諸外国と日本の「幸福度」に関する国際的なデータを手がかりとしながら「幸福の構成条件」について考えます。

73

SDGsと地域福祉

岡田 直人 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

SDGs(持続可能な開発目標)は、国連サミットで採択され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。この目標の多くで地域福祉と深く関係しています。17のゴールのほぼ全てといっても過言ではないでしょう。地域福祉は、町内会や小学校区など私たちの生活圏域での話が中心となります。「地域(子ども)食堂」「農福連携」「フードバンク」などSDGsで説明することが可能です。意外と身近で、福祉とも結びつくSDGsについてお話させていただきます。

77

多文化共生と社会福祉

～日本の現在と未来～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

グローバル化が進んだ現代社会では、海外から多くの人々が日本を訪れており、旅行(インバウンド)、留学、就労などその目的も多様です。それは、日本とは異なる言語、文化、生活習慣、宗教などを背景とした人々を受け入れ、尊重する社会の構築・実現を必要とします。今日では「多文化共生」という言葉も頻繁に使われるようになりましたが、日本において十分に実現されているかといえば、必ずしもそうではありません。そして、これは「社会福祉」とも深い繋がりがあります。

本講義では、社会福祉の視点から日本における「多文化共生」の現在と未来について考えます。

74

社会と社会福祉

佐橋 克彦 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

「福祉」は単なる思いやりや、やさしさだけで語れるものでしょうか。確かにそれらは福祉を構成する一部ですが、現代社会における「社会福祉」は政治や経済との関係を抜きにして理解することは難しいです。

本講義では社会福祉の前段階である慈善や、救済の限界などに触れつつ、わが国における社会福祉の成立を整理します。社会とは一体何者なのか、そして「社会」福祉の意味や現代におけるその存在意義を社会福祉制度の概要や社会福祉援助の特質を踏まえて考えてみます。

78

現代における幸福(well-being)論

～SDGsと社会福祉から考える～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

私たちの誰もが「幸せになりたい」と願う一方、「幸せのかたち」は多様です。これは「幸せの条件には個人差がある」ことを意味します。しかし、万人に共通する「幸せの条件」があるとすれば、それは何でしょうか？2030年に向けて世界が取り組んでいるSDGs(持続可能な開発目標)は、世界の人々にとっての「幸せ」を希求するプロジェクトと言っても過言ではありません。

本講義では、現代における幸福(well-being)論について、SDGsと社会福祉のつながりを踏まえながら考察することにより、「すべての人々にとって共通する幸せのかたち」について考えます。

75

社会福祉学への招待

～理想の暮らしと社会の姿を考える科学～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

一般に、社会福祉という言葉からは「介護」が連想されることが多いですが、「社会福祉=直接的な支援=介護」ではありません。社会福祉学は「人と社会の幸福(well-being)」について政策と実践の両面から探求する科学です。その対象は個人、家族、集団のみならず、地域、社会、そして世界までを含みつつ、人々の生活問題や国内外の社会問題の解決を志向する実践的な学びを特長としています。社会福祉は政治、経済、社会の様々な領域と深い関連を持つ「社会の姿を映す鏡」であり、「私たちの未来」を考えるための重要な視点の一つです。

本講義では、理想の暮らしと社会の姿を考える社会福祉学の学問特性(応用科学・課題解決型)、政策と実践の連関性、学んだ後の進路の多様性(活かせる仕事の豊富さ)についてお話します。

79

少子化の理由はコレ！
じゃあどうすれば？

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

日本の少子化は1980年代後半から政策課題として認識され、政府による「少子化対策」がスタートしてから30年以上が経過しました。しかしながら、今日において少子化に歯止めはかかっておらず、当初の推計よりも早いテンポで少子化が進んでいます。

本講義では、少子化の進行にはどのようなことが関係しているのか、これから採るべき少子化への対応で効果が期待できる施策は何かについて紹介し、その実現可能性や条件について考えます。

福祉・健康

80

福祉は“恥ずかしい”？

松岡 是伸 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

福祉制度を利用することは“恥ずかしい”のか？
自分自身や他者からこんな思いを伺い知ったことはないでしょうか。
本講義では、福祉制度を利用することで感じる恥ずかしさとは何かについて解説を踏まえ、みなさんと考えていきます。同時に、福祉制度を利用する人々を他者や地域、社会はどのように見て、感じているかについても考えていきたいと思います。これらを通じて、福祉制度や相談支援におけるスティグマ（恥辱感）や偏見、差別等について理解を深めていきたいと思います。

81

現代日本を蝕む貧困

松岡 是伸 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

みなさんは「貧困」についてどのように理解しているのでしょうか。衣食住に欠如する状況のことでしょうか。確かに衣食住に欠く状態は貧困であるとも言えます。しかし私たちはそのような貧困にある人々を街中や通学路、知り合いの中などで出会うでしょうか。もしかしたら我々がわからないだけで既に出会っているかもしれません。
そこで本講義では現代日本を蝕む貧困について理解を深め、それに抗する人々や専門職、制度等について言及し、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

82

障害者福祉の考え方

田中 耕一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

障害者福祉の基本理念として、「ノーマライゼーション」と「社会モデル」の考え方を解説します。「障害者の生きづらさ」の原因を社会の中に見出してゆこうとするこの二つの考え方によって、障害者福祉の法律や制度、障害者支援の方法や内容がどのように変化してきたのか、また、今後、障害者が市民としてのさまざまな権利を保障され、市民にふさわしい社会生活をおくるためには何が必要なのか、という点について考えたいと思います。

83

こころの病(精神疾患)を理解する

永井 順子 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

こころの病(精神疾患)は、以前よりも私たちの生活のなかで身近な病気となっていますが、それでも誤解や偏見が根強くあります。精神疾患は若い世代から高齢者まで、人生のさまざまな段階で直面する可能性のある病気であり、病気や治療、福祉サービスについて知っておく意義があるでしょう。
本講義ではいくつかの精神疾患の特徴などを紹介し、病気について知っていただくとともに、病気に対する誤解や偏見があるのは何故かを一緒に考えていきたいと思います。

84

少子高齢化×人口減少=日本の将来 ~どんな地域になるの?どう生活するの?~

畑 亮輔 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

日本の中で「少子高齢化」や「人口減少」という言葉はよく聞かれますが、それらの具体的な問題についてはなかなか見えてきません。それは、「少子高齢化」や「人口減少」という問題が、日本という大きな規模では分かりにくいということでもあります。つまり、本来的にはそのような問題は、人々が生活をしている地域規模で考える必要があります。

この講義では、皆さんが実際に生活をしている地域に焦点を当てながら、「少子高齢化」と「人口減少」の現状を確認するとともに、今後の予測についても展望しながら、若い人も高齢者も幸せに暮らしていくためにはどうすればよいのかということを考えてみたいと思います。

85

保険証って、なぜ必要なの？

加藤 智章 (社会福祉学部教授)

病気やけがで医師の診療を受けるとき、いわゆる保険証を病院の窓口で提出します。なぜ、保険証を提出するのでしょうか。保険証を忘れた場合、どうということになるのでしょうか。

国民皆保険皆年金という言葉聞いたことがあると思います。保険証の提出は、“国民皆保険”に密接に関係します。ここでは、保険証の問題を手がかりに、医療保険制度の仕組みを考えていきたいと思います。

86

年金はもらえないと 思っていますか？

加藤 智章 (社会福祉学部教授)

君たちのおじいちゃん・おばあちゃんの中には、すでに年金(正確には公的年金)をもらっている方もおられると思います。少子高齢化が進行し総人口も減少する状況において、おじいちゃんやおばあちゃんはさておき、将来的には年金をもらえなくなるとか、金額が大きく減るのではないかと考えていませんか。

国民皆年金体制が将来的にどうなるのか、人口構造の推移や将来予測に基づいて考えてみましょう。

87

体力向上と日常生活習慣

星野 宏司 (社会福祉学部教授)

体力や健康づくりの基本は、食事、運動、休養が3本柱です。その中で、食事はバランスの良い食事を規則正しく摂取することです。特にトレーニング後の食事は糖質の補給はもとより、タンパク質の摂取が重要です。運動は、強度、種類、時間、頻度を考えて実施計画を立てなければなりません。休養は、睡眠と筋肉及び精神的緊張をリラクゼーションすることです。

このような内容を易しく講義します。

88

なぜフィールドワークは楽しいか ～女子サッカー選手の労働と生活を事例にして～

申 恩真 (経済学部准教授)

フィールドワークとは、研究者が現地（フィールド）に直接身をおきながら、研究対象となる人びとがどのように生活しているか、また、そこでの日常的な行為や発言を観察し、聞き取る（インタビュー）調査方法を指します。フィールドワークを通じて、量的データでは把握することができない、現地の人びとにとって大切なのは何かを知ることが可能になります。

したがって本講義では、フィールドワークの面白さとその魅力について、本研究者がフィールドで得られた女子サッカー選手の労働と生活に関するデータをもとにして講義を行います。

92

オリンピックを文化経済学で考える ～スポーツの文化経済学～

勝村 務 (経済学部経済学科教授)

文化経済学は、芸術やスポーツなど文化が開く社会はどうすれば実現できるのかを考える、比較的新しい学問です。

東京五輪は、なぜ7月から8月にかけて行われたのでしょうか。前回の東京五輪（1964年）は10月の開催でした。東京五輪では、競技会場についての紆余曲折もニュースになりましたね。また、札幌は、冬季五輪の2度目の招致をいま目指しています。

こうしたニュースを出発点に、オリンピックを入口として、スポーツと経済・社会の関係について考えてみましょう。

89

ケアすること されること

藤原 里佐 (短期大学部生活創造学科教授)

自分があかちゃんだった時のことを覚えていますか？？
家族の人から、あかちゃんのころの様子を聞いたことがあります。人は生まれてからしばらくの間、日常生活の全てにわたって、ケアを受けています。寝返りも、排泄も、食事も、着替えも誰かの手によってなされているのです。

そして、人生の最期においても、人は多かれ少なかれ、医療や介護のケアを必要とします。

元気で、なんでも自分の力でできるときには忘れがちな「ケア」について、それを支える側、必要とする側、両方の視点から考えてみたいと思います。

93

経済学史入門

楠木 敦 (経済学部経済学科准教授)

この講義では経済学史という学問分野の意義の一端を紹介したいと思います。経済学史とは、「経済学」の歴史を研究する学問分野です。ひとくちに経済学と言っても、さまざまな専門分野から構成されており、多様な考え方が混在しています。それゆえに、経済学とはどのような学問であるかということについても紹介することができます。

この講義が、高校生のみなさんにとって、経済学という学問に興味を抱ききっかけになればと思います。

90

子どもは誰のもの？

藤原 里佐 (短期大学部生活創造学科教授)

子どもは誰のもの？何才までが子どもなのでしょう。子どもは出自を選ぶことができません。「どこの家に生まれるか」「誰に親になってもらいたいのか」「どんな家庭環境で育ちたいのか」という希望は、聞かれることはありません。それゆえに、全ての子どもが健やかにのびのびと成長するよう、社会が責任をもって、子どもを見守らなければならないのです。

残念ながら、現代社会においても、子どもの健全育成が阻害される要因があります。毎日のように報道されている「子どもの教育」「子どもの格差・貧困」「子どもの生きにくさ」等々、この世に生まれ、愛し尊ばれるべき子どもが、笑顔を失っています。子どもをとりまく社会状況の変化とその背後にある問題を一緒に学んでいきたいと思えます。

94

牛丼とハンバーガー、どちらがお好き ～経営と会計の味な話～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

「100円ハンバーガーは、いくらで作っているのか」、あるいは「本当に会社は儲かっているのか」を考えたことがありますか？

食べ物や商品の値段には、用意周到な企業戦略が隠されています。この講義では、普段我々が口にしている食べ物や商品の値段がどんな風に決められているかを、会計（製品原価）の観点から紹介します。そしてそこに隠されている企業戦略とはいったい何かを皆さんと一緒に考えます。

この講義を聴くと、絶対友達に自慢したくなりますよ。

91

サキヨミの経済学 ～ゲーム理論と美人投票～

勝村 務 (経済学部経済学科教授)

他の人の行動を先読みして、自分の行動を決める。そうしたとき、わたしたちはどのように行動を決め、そしてそれはどのような結果をもたらすのでしょうか。ここに着目するのが、ゲームの理論と「ケインズの美人投票」という考え方です。

この講義では、まず前半に、ゲームの理論（合理的に行動すると？）、そして、そこから発展している行動経済学（ひとは必ずしも合理的には動けない？）が考えていることについて、ごく簡単に紹介します。

後半では、「ケインズの美人投票」を体験してもらうことを通じて、現代の社会についていっしょに考えていきます。

95

あなたの知らない世界 ～職業と会計～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

高校生が聞いたことがない学問領域のひとつが会計学でしょう。もしかすると会計という言葉も聞いたことがないかもしれません。

しかし、世の中には会計にかかわる仕事がたくさんあります。しかも会計にかかわる資格検定もたくさんあります。これはなぜでしょうか。

この講義では、大学卒業後の進路（職業選択）を会計学という視点から考えます。

「そんな学問があったのか」と視野を広げ、大学での学びについて考えるキッカケをつかんでもらうことがこの講義のねらいです。

経済・経営

96

決算書を読んでみよう

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

決算書を見る目にはふたつの側面があります。ひとつは複式簿記に基づいて適正な決算書を作成することです。いわば決算書を「作成者の目」で見ているといえます。もうひとつの目的は決算書を「利用者の目」で見ることです。これは財務諸表分析や経営分析といわれ、ビジネス社会ではとても重要になっています。

講義では製造業と情報通信業が公表している決算書を用いて比率計算をしてもらい、決算書から何を読み取ることができるのかを一緒に考えます。(学年は問いませんが簿記学習者向け)

100

人の移動と お店の立地・数の関係について探る

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

現在、日本国内には非常に多くのコンビニが存在し、場所によっては同じチェーン店が近接して立地しています。どうしてこのように多くのコンビニが立地しているのでしょうか？これは消費者である皆さんの買物行動・移動の特性(商品の種別や価格、周辺環境&気軽に歩ける距離、行動範囲など)が大きく影響しています。そして、人の流れ(動線)にも大きく影響してきます。

本講義では、身近なコンビニを中心とし、店舗・施設の立地と人間の行動・移動の特性との関係について、実例を挙げながら探っていきたいと思います。立地について探っていくと、まちの形成や成り立ち、広がりについても理解できるようになります。

97

経済学と経営学、何が違うの？

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

「将来、〇〇になりたいので大学では経済学部に進学したい」という方は多いと思います。ですが経営学部という学部もありますし、隣接学部として商学部という学部もあります。

ここで問題です。「経済学と経営学の違いを説明できますか？」

この講義では、経済学や経営学について、経済学部でも経営学部でも学ぶ機会がある会計学の観点から眺めることを通して考えます。この講義を聞いてスッキリとして経済学部での学びに備えましょう。

101

私たちの身の回りに広がる ユニバーサルデザイン

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

皆さんは、シャンプーボトルに付いている突起をご存知でしょうか？キッチンにある水栓(蛇口)の取っ手はどうして今のような形になったのでしょうか？これらは、ユニバーサルデザイン(UD)の一例です。UDはすべての人のためのデザイン、多様な人々が使いやすいくなる工夫のことを指します。近年、このUDは、商品・サービスのみならず、商業施設や交通施設(空港・駅等)、観光、防災等、広く活用されています。

本講義では、私たちの身の回りに浸透してきている様々なUDについて説明し、より使いやすい便利にする「工夫」「アイデア」について、学校内での応用も含め、皆さんと一緒に考えてみます。「気づき」が重要ポイントです！

98

コンビニを通して、購買心理と 店内の工夫を探る

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

コンビニエンスストアは、比較的狭い売場面積にもかかわらず、食品や日用雑貨を中心に数千種類にも及ぶ商品が取り揃えられています。これらの商品は、種類別にまとまってレイアウトされていますが、適当に配置されているわけではありません。チェーン店によりそれぞれ特徴もありますが、商品のレイアウト(配置・並べ方など)については、来店客が買物をしやすいように、心理や移動の特徴に基づいた様々な工夫を行っています。

この講義では、コンビニの売場を通して、来店客の買物の際の心理・行動分析とそれに伴うお店の工夫について、いくつかのわかりやすい視点から説明いたします。

102

ピクトグラム(絵文字)に 隠された秘密に迫る!

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

皆さん、図記号である“♻”は何を表しているか、ご存知でしょうか？多くの皆さんは、すぐに何を表しているかわかりになるかと思いますが、しかし、外国人が初めてこの図記号を見たときに、皆さんと同じ意味で理解することができるでしょうか？近年、外国人(観光客等)や子どもなどにもわかりやすい、また遠くからでも認知しやすいピクトグラム(絵文字・絵言葉/ユニバーサルデザイン)が大きな注目を集めています。

本講義では、ピクトグラムを中心として、案内サインに隠された様々な「わかりやすく、趣旨(想い)を伝えるための工夫」について、実例(空港・駅、観光地、防災、海外等)を用いながら、皆さんと一緒に探ってみたいと思います。

99

コンビニ大解剖! ～商品と歴史について探る～

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

皆さんは、コンビニに何を買いに行きますか？コンビニは、その名称にも表れているように、日常生活における“便利な”お店として、私たちの周辺に多く存在しています。このようにコンビニ店舗数が増え、大きく発展してきた大きな理由の1つに、近隣(通学途中等も含む)のお客のニーズを踏まえた商品やサービスを上手に取り入れてきたことが挙げられます。

この講義では、コンビニの定義(特徴)や生まれた経緯・成り立ちとともに、商品構成(何をかうのか?)に焦点を当て、発展してきた要因・理由について探ってみます。また、コンビニの特徴や想い(ネーミングやロゴ「形・色等」)にもその秘密が隠されています。歴史についても紹介いたします。

103

お菓子プロジェクトから探る 企画プロセスの実際

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

2019(令和元)年度に、大学生(経営情報学科3年生/当時)が複数の企業(電力会社、小売販売会社、マーケティング会社、スイーツショップ)と「異色のコラボレーション」と言われた連携を行い、「北海道おみやげお菓子 商品開発プロジェクト」に取り組みました。そして、そのプロジェクトにより新食感のスイーツ(お菓子)を生み出すことができました。

本講義では、プロジェクトによる取り組み事例(過去の他事例も含む)を紹介することにより、商品・サービスの企画・立案や購買行動・心理の分析など、実際のプロセスについて知っていただくことを目的としています。皆さんでしたら、どのようなスイーツの企画を考えるのでしょうか？

104

経営情報学科の学びと まちづくりの意外な関係

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

経営情報学科では、地域において、様々な実践的なプログラムやプロジェクトを実施しています。実は、学科の中心をなす「経営」「マーケティング」「情報」「会計」の4分野の学びは、主として企業を対象としていますが、その学びはまちづくり&地域活性化に大きく役立てることが出来ます。

本講義では、学科の学びとの関係について意識をしながら、まちづくり&地域活性化について、海外事例にも触れながら、皆さんと一緒に考えていきます。また近年、まちづくりにも大きな影響を与えているDX (デジタルトランスフォーメーション) 等の「情報」との関係や近年、「人の移動」に革命をもたらすと言われているMaaS (Mobility as a Service) にも触れたいと思います。

108

消費者インサイトが生み出す マーケティングの効果

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

「消費者インサイト(consumer insight)」とは、消費者自身も気づいていない潜在ニーズ、つまり【心のホットボタン】を察知することであり、効果的なマーケティングによりそのボタンを押されると、「そう、そういうものが欲しかったんだ」と、思わず心が動いてしまいます。消費者インサイトは、消費者の潜在ニーズを捉えた製品開発 (新しい市場の創造)、組織の存続と成長を支える「ブランド価値の創造」などにおいて、きわめて重要な意味をもっております。

本講義では、世界各国のブランド・マーケティングの事例を取り入れながら、「消費者インサイトが生み出すマーケティングの効果」について、わかりやすく解説します。

105

ブランドの生き方: 人々を幸せにする商品開発

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

現代社会は「ブランドが彩る世界」と言っても過言ではありません。

商品開発のアウトプットとしてのモノ (& サービス) を消費者の「生活世界 (lifeworld)」と関連づけ、どのような価値 (魅力) を共感してもらい、どのようにして消費者とブランドとの (強い) 絆を構築できるか、ということについて、(日本を含めた) 世界の様々なブランドの成功事例を取り上げながら、分かりやすくお伝えします。

109

「H2Hマーケティング」と ブランド・マネジメント

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

本講義では、近年世界的に注目されている「H2Hマーケティング」の視点 (S-D Logic (サービス・ドミナントロジック)、デザイン思考、デジタル化) を中心として、現代社会における市場ダイナミクスおよび消費者行動の理解、ブランド・マネジメントにおける「創造的適応」などについて、世界各国の豊富な事例を取り上げながら、わかりやすくお伝えします。

106

「ソーシャルメディア」と 消費者行動、マーケティング

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

ソーシャルメディア (Facebook, Twitter, YouTube, Instagram, Pinterest, ...) は、現代社会における消費者の生き方、購買・消費行動、および消費文化に大きな影響を与えています。本講義では、現代における消費者の【生きている世界 (Lifeworld)】と【ソーシャルメディア】の本質に関する理解を深めながら、世界各国のマーケティング事例をベースに、【現代社会におけるソーシャルメディアと消費者行動、マーケティングのあり方】についてわかりやすく解説します。

110

サービス科学と情報技術

林 秀彦 (経済学部経営情報学科教授)

私達の身の回りには様々なサービスがあります。既存のサービスに潜む問題を解決したり、新たなサービスを創出したりする取組みが、情報技術を活用して実践されています。

それらの事例を交えてサービス科学について考えます。

- 身の回りのサービス
- サービスとは
- サービス科学について
- 情報技術による問題解決
- 問題解決型サービス科学について

107

消費者の「生きられた経験」と ブランド・マーケティング

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

消費者のニーズを満たす製品やサービスを提供し、市場における顧客の満足を勝ち得ていくことは、マーケティングの永遠のテーマといえます。それを実現していくためには、消費者の心理や購買行動、消費行動の本質 (消費経験の意味、消費者インサイトなど) をより深く理解することが求められます。

本講義では、最近注目されている「現象学」、「身体化認知 (Embodied Cognition)」アプローチの視点を中心として、消費者の「生きられた経験」(Lived Experience)とブランド・マーケティングについて、世界の様々なブランドの事例を取り上げながら、わかりやすく解説します。

111

「日本マクドナルドvs.モスバーガー」 に学ぶ経営戦略

黄 雅雯 (経済学部経営情報学科准教授)

2020年6月24日に発表された日経流通新聞の「第46回日本飲食業調査」によると、日本マクドナルドは2019年度店舗売上高の1位となりました。また、日本のハンバーガーチェーン市場においては、日本マクドナルドとモスバーガーが市場シェアの上位2社です。

この講義では、日本マクドナルドの強み、そしてモスバーガーが日本マクドナルドと対抗するために取った企業行動などを紹介します。この講義を通じて、皆さんが企業の戦略行動を分析するための視点を身につけることを目標とします。

経済・経営

112

「LINE」に学ぶビジネスモデル

黄 雅雯 (経済学部経営情報学科准教授)

LINEは、ユーザー同士であれば、無料で音声・ビデオ通話・チャットが楽しめるコミュニケーションアプリです。LINE株式会社の「2021年1-6月期媒体資料」によると、2020年9月末時点において日本国内のLINE利用者数は人口の68%以上をカバーしています。この講義では、LINEが何の価値をどのように提供するかを紹介します。この講義を通じて、皆さんが企業の「儲けの仕組み」を分析するための視点を身につけることを目標とします。

116

お金の流れを知ろう！ 「金融政策のしくみ」入門

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

金融政策は、私たちの生活や未来に大きく関わっています。ニュースでよく聞く「景気」や「物価」といった話題も、金融のしくみを知るとぐっと身近になります。

この講義では、高校生にもわかりやすく、金融政策がどのように私たちの生活や経済に影響を与えるのかを解説します。最新の政策例を交え、お金の流れや政府の役割を一緒に楽しく学びましょう。金融政策を理解することで、ニュースがもっと面白くなり、社会の仕組みを考える力がつきます。この機会に、未来を支える知識を身につけてみませんか？

113

家電リサイクル法と経済学

増田 辰良 (経済学部経済法学科教授)

大学では法学と経済学とは別個に教えられています。しかし、この2つの学問は人間の行動を観察し考察するという同じ社会科学の領域に属しています。本来、これらの学問は相互に関連合っています。この講義では家電リサイクル法(正式名称「特定家庭用機器再商品化法」2001年4月施行)を取り上げ、法の導入が経済主体に与える効果を説明します。

不用になった1.エアコン、2.テレビ(ブラウン管及び液晶・プラズマ式)、3.電気冷蔵庫及び電気冷凍庫、4.電気洗濯機及び衣類乾燥機、を処分するとき消費者→排出者は「収集・運搬料金」と「再生品化費用=リサイクル料金」を支払わなければなりません。経済学ではこうした不用物を「バッド(bads)」と呼んでいます。この場合、不用物とお金がその所有者から取引相手へ一方的に流れます。家庭ゴミの有料化制度もこれと同じ主旨で実施されています。

以下の順番で講義を展開します。
リサイクルとは何か。家電リサイクル法が導入された背景、目的と運用成果。家電リサイクル法が経済主体に与える効果。家電リサイクル法の課題。

117

「お金」になりうるモノとは

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

人類は古くから、取引を円滑にするために様々な「お金」を使ってきました。香辛料や金貨から始まり、紙幣(兌換、不兌)へと形を変え、現代では仮想通貨という新しい形のお金も登場しています。

この講義では、「お金」として使用されるモノに共通する性質や、それぞれの相違点を一緒に考えていきます。なぜ特定のモノが「お金」として機能するのか、歴史や仕組みを学ぶことで、経済の基本を楽しく理解してみませんか？お金の本質を探ることで、私たちの日常の中にある「価値」の仕組みが見えてきます。この機会に、お金の進化を通じて経済の奥深さを感じてみましょう！

※9月以降開講予定

114

数学を使って、経済問題を解く

増田 辰良 (経済学部経済法学科教授)

高校では、「政治・経済」は文科系の科目として、教えられています。しかし大学で学ぶ経済学(歴史や制度論以外)は理科系の科目に該当します。身の回りにある経済問題を数学(四則演算、一次関数、二次関数、三次関数、平方根の関数、指数関数、微分、積分、確率)を使って、解きます。

この講義では、高校2年生で学ぶ「微分(の概念と操作)」を用いて、具体的に経済問題を解いてみます。

118

もしみんなが『ファイナンシャル・プランナー』になったら

南 ホチヨル(経済学部経済法学科准教授)

毎年50万人近くの受験者を誇る「経済分野」の「国家資格」として「ファイナンシャル・プランニング技能士」があります。ファイナンシャル・プランニング技能士は「年金」「保険」「投資」「税金」「不動産」「相続と事業継承」について理解して、お金に関する(ファイナンシャル)生涯の設計者(プランナー)になる資格なのです。ここで想像してみてください。もしみんなが「ファイナンシャル・プランナー」になったらこの世の中はどのように変わるか。

この講義では、大学の経済学部の学生が最も簡単に取得している「国家資格」の「ファイナンシャル・プランニング技能士」について紹介して、「ファイナンシャル・プランナー」になってできることについて一緒に考えます。

115

未来をつくる資産形成:高校生から始めるNISAとお金の学び

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

若い今だからこそ資産形成について正しい知識を身につけることで、将来の人生設計を自由に描く力を得られます。

この講義では、証券アナリスト、金融経済教育推進機構(J-FLEC)認定アドバイザーでもある担当者が、高校生にもわかりやすくNISAの仕組みや資産形成の基本を解説します。

さらに、資産形成のシミュレーションを通じて、投資が未来にどのような影響を与えるかを実感していただけます。投資を難しく考える必要はありません。一歩を踏み出せば、お金の学びはあなたの未来を豊かにする大きな力となります。

「お金を学ぶことは、未来の自分への贈り物」。ぜひこの講義で、人生を広げる第一歩を踏み出しましょう。

119

ゲーム理論で読み解く高校世界史

板谷 淳一 (経済学部教授)

高校の世界史は無味乾燥な暗記科目と考えている高校生の皆さんも多いかもしれませんが。

本講義では、大学で勉強する経済学、なかでも、ゲーム理論を用いて、高校で学習する世界史における事件を取り上げて論理的に解説したいと思います。今回、取り上げるのは1962年に起きたアメリカとキューバ間の核戦争の可能性もあったキューバ危機が、どのような展開で回避されたかをゲーム理論を用いることによって、当事者間の意思決定の流れを解説したいと思います(キューバ危機を知らない人は映画『13デイズ』を見てください)。

120

日本の経済学者たち

山本 慎平 (短期大学部生活創造学科准教授)

皆さんは日本語の「経済」という言葉がいつごろできたかご存知でしょうか？幕末の開国から、明治の近代化の時代にかけて、日本は西洋の学問や技術をたくさん輸入しました。経済学という学問もこの時に日本に入ってきました。当時の日本の学者たちは、西洋の経済学を学んで、それを日本の近代化に活かしたり、貧困や格差をなくそうとしたりしました。

講義では、戦前期の有名な経済学者たちを数人取りあげ、彼らが西洋の経済学をどのように学び、それを社会の改善にどのように利用したのかについて学びます。そこから現代日本の問題に対する解決策を探ってみましょう。

124

デザイナー・ベビー

～魔法か、それとも悪魔の技術か？～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

親ならば、子どもに「賢くなってほしい」、「可愛くなってほしい」と願うはず。だから、親は、子どもを塾に通わせたり、きれいな服を着せたりします。ならいっそのこと、遺伝子を操作して、自分好みの子どもを「デザイン」してはどうでしょう。

現在「ゲノム編集」という技術が開発されて、より簡単に、より正確に遺伝子を操作することが可能になりつつあります。記憶力を高めたり、目を二重にしたり、「ガタカ」という映画を見ながら、「デザイナー・ベビー」をめぐる法や道德の問題について一緒に考えてみましょう。

121

契約・法・北方領土

篠田 優 (経済学部経済法学科教授)

落語の三題噺みたいなテーマですが、無理なくこの三題はつながっています。どうつながっているかというところ——

- ①適法に締結された契約は法律の効力を持つ；
- ②条約は、国家間の契約である；
- ③条約のないところでの領土問題の法的解決は、甚だ困難である；
- ④日口間で北方領土問題を決する条約はない；
- ⑤ゆえに、北方領土問題を解決するには政治的知恵をしばらざるを得ない；

ということです。講義ではこの5点を膨らませながら、契約と法について考えてみたいと思います。

125

家族における平等

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

憲法は、家族に関する法律は「個人の尊厳」と「両性の本質的平等」に立脚して制定されなければならないと定めています。しかし、法律の中に男女で異なる取扱いを定める法律がありました。たとえば、結婚できる年齢が男性と女性とで違いましたし、女性は男性とは違って、離婚後すぐには再婚できませんでした。ようやく令和になって、このような平等に反する取扱いは改められつつあります。それでも、両性の平等と夫婦の同権という憲法の理念は、完全には実現しているわけではありません。夫婦別姓をめぐる問題もその1つです。また、同性婚の問題も平等にかかわります。平等という観点から家族について一緒に考えてみましょう。

122

犬の権利と猫の義務

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

動物にも、生きる権利がある。自由に生きる権利もあるし、虐待を受けない権利もある。♪僕らはみんな生きている～、生きているから権利があるんだ～♪冗談ではありません。

権利を研究する専門家の中には、人間以外の動物にも権利があると大まじめに主張する人たちがいるのです。ただし、ここでいう権利は、法に基づく権利ではなく、道徳に由来する権利のことです。

動物にも権利があるとすれば、私たちの日常生活は、一変するでしょう。スポーツとしてハンティングを行うことももちろん、鶏を狭い小屋に押し込めて飼育することも、犬や猫を去勢することも、みんな動物に対する権利侵害ということになります。

動物にも権利はあるという問題は、人間にだけ権利があるのはなぜかという問題と表裏をなす問題です。常識を疑い、眼鏡を逆さまにかけることから見えてくる真実もあります。さあ、一緒に考えてみましょう。

126

18歳の選挙権

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

選挙に関する法律である公職選挙法が改正されて、選挙で投票できる年齢が18歳に引き下げられました。高校生の皆さんのなかでも、選挙権を持つ人が出てきます。また、憲法改正のための国民投票に参加できる年齢も18歳です。18歳は大人、それとも子ども？投票できる年齢が18歳に引き下げられたことをうけて、高校生の皆さんは、主権者として政治にどのようにかかわっていけばよいのでしょうか。政治について考えることは、決して難しいことではありません。日常の問題を通して、選挙と政治について一緒に考えてみましょう。

123

あなたは覗かれている

～プライバシーの危機～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

情報社会は、私たちの生活を便利なものに変えていきます。携帯電話があれば、ほとんどいつでもどこでも友達と楽しくコミュニケーションできます。インターネットでのオンライン・ショッピングを使えば、お店に行く必要もなく、欲しいものを欲しいときに簡単に手に入れることができます。防犯カメラを取り付ければ、犯罪を未然に防ぐことができるかもしれません。でも、情報社会は監視社会でもあります。便利な道具は、使い次第で私たちの生活を丸裸にする力を持っています。

この講義では、情報社会におけるプライバシーの意義についてできるだけ易しく解説します。そして、私たち自身が、携帯電話やインターネット、防犯カメラなどの便利な道具をどうやってコントロールすべきかについてお話ししたいと思います。

127

AIと法・倫理

～私たちはAIとどうつき合うか～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

人工知能 (AI) は、私たちの生活の至るところに入り込んでいます。インターネットで本を買えば、AI は、次に読むべきオススメの本を教えてください。たくさんの情報を入力すれば、自分にピッタリの結婚相手も選んでくれます。人間の代わりに仕事も家事も、車の運転だってしてくれます。やがて、AI が組み込まれたロボットが、生身の人間に代わって戦争する時代もくるかもしれません。私たちはAI とどうつき合っていくべきなのでしょう。

この講義では法と倫理の観点から考えます。

法律

128

拷問はなぜ絶対に禁止されるのか ～国際人権法入門～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

憲法でも国際条約でも、拷問は絶対に禁止されています。しかし、テロリストが爆弾を仕掛けた場所や誘拐犯が子どもを監禁した場所を答えられない場合など、他人の生命が脅かされているときでも拷問は許されないのでしょうか。拷問の問題を通して、国際人権法の意義について考えます。

132

災害復興法学のすすめ

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

2011年3月11日、東日本太平洋側一帯を東北地方太平洋沖地震による大津波が襲い、壊滅的な被害が生じました(東日本大震災)。ところで、北海道では、津波による災害について、北海道南西沖地震による奥尻町の津波災害の経験を有しています。奥尻町の津波からの復旧・復興においても、東日本大震災による復旧・復興と同じような法律上の問題が生じていました。

本講義で、奥尻町が、それらの法律上の問題、とくに土地問題をどのようにクリアーしていったのかについてフォローしたいと思います。奥尻町の復旧・復興の経験から学べることはたくさんあります。

129

売買契約の考え方～ローマ法編

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

日本民法の淵源は、古代ローマ法にあります。古代ローマでも、現代と同様、日常的に売買契約が行われていました。現代と違うところは、奴隷(人間)が売買契約の対象とされたこと。売買契約の対象とされた奴隷に、逃亡癖があったり、窃盗癖があった場合、その売買契約の効力はどのようになったのでしょうか。古代ローマの売買契約のルールを知ることは、現代の日本民法の売買契約のルールを知ることに繋がります。

本講義では、高校生たちと一緒に、古代ローマの売買契約を素材に、法的な思考法、さらには、現代日本民法の売買契約のルールを学んでいきます。一つの講義で法的な思考法と歴史を学ぶことができるお得な講義です。講義は、グループワークで進めていきます。

133

卒業後の人生・生活を 考えてみましょう

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

高校または大学を卒業したら、自分でお金を稼いで、生活していくこととなります。卒業後、就職をして、その給料で、生活していくとなると、どのくらいお金がかかるのか。学生時代に、奨学金を借りていたら、その返済は…。就職後、長期休みに、海外旅行に行けるのか…などなど。就職後の給料をもとに、家計簿をつけながら、高校または大学卒業後の生活を考えていきます。そこから、皆さんが、将来、どういう仕事をしたいのか、どういう生活をしたのか、そして、どういう人生を歩んでいきたいのかなどを、皆さんと一緒に考えることができれば、と思います。

130

お金の貸し借りについて ～日常編

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

親子でのお金の貸し借り、友人とお金の貸し借り、など、高校生の日常でも、お金の貸し借りは、よくあることだと思います。借りた側が、借りたお金を返してくれれば、問題はありませんが、返してくれない場合、トラブルが発生します。

本講義では、お金の貸し借り契約の契約書を作成しながら、お金の貸し借りの法的な構造とその怖さ(法律面)を、高校生と一緒に考えていきたいと思います。さらに、お金の貸し借りを通じて、法的な思考法についても、伝えることができれば、と思います。講義は、グループワークで進めていきます。

134

契約法務入門

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

売買契約書を素材にして、取引に関わる法的な思考法と知識、そして、取引実務についても学んでいきます。

講義は、受講者とのソクラテス・メソッド(問答形式)で進めていきます。予備知識は必要ありません。受講者の常識感覚で考えて答えていただければと思います。卒業後、新社会人として取引社会に出ていく高校生や、消費者被害に備えたい一般の方にも有意義な講義です。受講者のニーズに合わせて、契約書の素材・講義の仕方をアレンジすることも可能です。

131

親子とは何か ～親子法のヒューマニズム

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

近年、親子に関わる画期的な判例が多く出されています。たとえば、嫡出でない子の法定相続分に関する違憲判決や、性同一性障がいによる性別変更を受けた夫と妻の間で生まれた子の嫡出推定に関する判決などです。それらの判例を素材に、民法が予定する「親子」とは何なのか、裁判所は「親子」をどう捉えているのか、さらには、「親子」を法的にどのように考えていくべきなのか、について、高校生と一緒に、グループワークで考えていきます。各人の価値観にも関わるデリケートな問題ですが、それを取って考えることで、「事実」と「法(法律)」との緊張関係を伝えることができれば、と考えています。

講義は、グループワークで進めます。

135

在学契約で考える 学ぶことの意義

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

皆さん高校生が高校で学ぶことの法的な基盤には、皆さんと高校との間に在学契約が存在します。

本講義では、在学契約に基づいて、皆さんが負担する義務と、高校が負担する義務を考えていきます。例えば、皆さんは授業料を支払う義務を負担し、高校は教育をする義務を負担します。十分な教育が与えられない場合、皆さんは授業料の減額を求めることができるのでしょうか? 学ぶことを在学契約として捉えることは、皆さん高校生が高校で学ぶことの意義を改めて考えるきっかけになるでしょう。講義は、ソクラテス・メソッド(問答方式)で進めていきます。

136

ネゴシエーションを体験しよう

長屋 幸世 (経済学部経済法学科教授)

もし、友達に貸したモノが壊れて返ってきたら。もし、隣の家の庭木から、大量の落ち葉が舞い落ちてきたら。皆さんは、一体どのように対応するでしょうか。紛争の種は身近な所にあります。そして、その解決方法も様々です。

この講義では、基本的な紛争解決方法であるネゴシエーション（交渉）の実践を通じて、紛争の解決を試みると共に、そこで法律がどのような役割を果たしているのかを考えます。

137

お金がない!

長屋 幸世 (経済学部経済法学科教授)

お前の物は俺の物!…とはいかないのが、この世の中。借りたものはきちんと返さなければなりません。それは、お金だって同じ。

この講義では、二人の登場人物による、お金の貸し借りをめぐる物語を、法律の視点から解説します。なお、ストーリーは、皆さんの選択で変わります。果たして、どんな結末が待っているのでしょうか!?

138

高校世界史から法律学への架け橋

竹田 恒規 (経済学部経済法学科専任講師)

法律学の中でも、国家権力と私たちの関係を考察する公法学（憲法・行政法など）は特に、高等学校で学習する世界史と密接な関係にあります。公法学は、近代市民革命（代表例がフランス革命）の銃声の中で生まれたのです。世界史で学習する「過去」がどのように、「現在」の国家につながっているのか。「現在」の公法学が「過去」の世界史の何を基盤にしているのか。とかく、無味乾燥な「暗記」に陥りがちな歴史の学習を、「現在」の法学が直面している課題と結びつけることで、活き活きとした学習科目へと変えるお手伝いをします。

139

法は美しい街づくりの手助けになるのか?

竹田 恒規 (経済学部経済法学科専任講師)

法律学の中でも行政法は、私たちの日常生活と密接な関係にあります。魅力あふれる都市景観や豊かな農村風景。時には美しい景観を破壊する屋外広告物。静かな住宅街のど真ん中に突如として建設されるタワーマンション。街づくりは、法学とどのように関係しているのか。現在の法制度は美しい景観を作り出せるのか。そのようなことを身近な実例を参考に考えてみたいと思います。

140

平和構築とは何か

野本 啓介 (経済学部経済学科准教授)

平和構築というのは耳慣れない言葉かもしれませんが、戦争・紛争・大災害などによって滅茶苦茶になってしまった国・地域を立て直していくための総合的な活動・支援を表します。世界中で紛争などが起こり多くの人々が苦しんでいます。紛争などが終わってもすぐに平和な暮らしが戻ってくるわけではありません。こうした国々では、物や施設が壊れたり失われたりするだけでなく、政治・経済・社会の仕組みやルール（目に見えないもの）が壊れたり失われたりしており、これが復興の大きな障害となっています。

この講義では、紛争などの現状はどうか、紛争後の国・地域の状況はどうなっているのか、平和構築ではどのような活動や支援が行われているのか、社会のルールが失われるとどのように大変なのか、などについてお話します。

141

世界の子どもの現状

～私たちに何ができるのだろうか～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私たちが住むこの世界には、経済的に豊かな国がある一方で、学校に通うことができない子ども達も数多く存在しています。

この講義では、子ども兵士と呼ばれる子ども達に焦点を当てて、世界が現在抱えている貧困や紛争の問題について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

142

アメリカやイギリスの大学での学び方

～「英語を学ぶこと」と「英語で学ぶこと」～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私は大学生の頃にアメリカの大学で1年間交換留学生として学び、そして大学院修士課程をイギリスの大学院で過ごしました。また、2016年度にはアメリカの大学で1年間在外研究をしました。これらの経験を踏まえて、アメリカやイギリスの大学（大学院）での学び方について話をしたいと思います。その際には、「英語を」学ぶことと「英語で」学ぶことの関係性についても皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

143

平和学入門

～「戦争の世紀」から「平和の世紀」とするために～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

北星学園大学の海外協定校の一つであるManchester University (米国インディアナ州) は、1948年という第二次世界大戦が終結してから3年後という早い時期に、世界で初めて学部レベルで平和学専攻を設けたことで知られています。同大学のプログラムは、その後平和や紛争に関するプログラムを設けた世界の諸大学に大きな影響を与えました。皆さんとともに、地球的問題群と呼ばれる私たちが直面する世界の諸課題について、一緒に考えてみたいと思います。

国際関係

144 身近なものから日本と 東南アジアの関係を考える

浦野 真理子 (経済学部経済学科教授)

東南アジアをはじめとするアジアの国々と日本のかかわりを身近な事例を中心に話します。日本は東南アジアから多くの自然資源、食べ物、繊維製品を輸入し、東南アジア諸国は、日本企業が生産する機械や自動車などを買ってくれるお得意様です。また、日本の多くの企業は、ベトナムなど東南アジアの労働力の安い地域に工場を建てています。

しかし、日本と東南アジア諸国との関係には、進出企業の労働問題、エビ、木材生産に伴う環境破壊など様々な問題も指摘されています。日本と関わりの深い東南アジアという地域との関係を勉強することは、私たちが暮らす日本の経済や社会についてよりよく知ることにもつながります。

148 世界とつながる仕事：通訳者が 支えるグローバル社会

田中 直子 (短期大学部英文学科准教授)

グローバル化が進む現代、通訳者は単なる言語の翻訳者ではなく、異文化の橋渡し役として重要な役割を果たしています。ビジネスや観光、国際会議など、さまざまな場面で活躍し、国際理解を深める鍵となる存在です。

この講義では、通訳の仕事や求められるスキル、グローバル社会での役割について学びます。

イノベーション・サステナビリティ

145 ホスピタリティ産業と イノベーション

森越 京子 (短期大学部英文学科教授)

ホテルやレストランなどのホスピタリティ産業では、様々なイノベーションが起きています。産業における具体的なイノベーションを学び、持続可能なビジネスの発展や新しいサービスの事例を考察します。テクノロジーの活用についても探求し、ホスピタリティ産業の未来について理解を深めます。

149 Surviving and Thriving when Studying Abroad

M. コッター (短期大学部英文学科准教授)

In this class, we will cover the essential do's and don'ts of studying abroad. We will also explore cultural differences, coping with homesickness, and adjusting to life with a host family. Through group discussions, we will address common challenges that may arise while studying abroad and explore ways to overcome them. The class will be conducted in English.

(リクエストに応じて日本語での実施も可能)

146 旅行者として、サステナブル・ ツーリズムについて考える

森越 京子 (短期大学部英文学科教授)

このワークショップでは、旅行者として、サステナブル・ツーリズムを考えます。まずは、サステナブル・ツーリズムとは何か基本的な概念を学びます。旅行者の立場から、持続可能な観光についてどのようなことができるか考えます。

150 Innovation and Life in New Zealand

M. コッター (短期大学部英文学科准教授)

In this class, we will begin by exploring New Zealand's history, culture, and daily life. We will then examine areas where New Zealand has demonstrated its innovative spirit and the contributions this small country has made to the world. The class will be conducted in English.

(リクエストに応じて日本語での実施も可能)

147 クロスボーダー社会における 外国語ガイドの役割

田中 直子 (短期大学部英文学科准教授)

グローバル化が進む現代、外国語ガイドは単なる観光地の案内役ではなく、異文化対応力や高度なコミュニケーション能力を求められる職業となっています。特に、近年の観光ガイド研究では、地域の観光産業の発展、環境保全、旅行者の安全管理といった広範囲な役割が注目されています。

この講義では「クロスボーダー社会」という視点から、外国語ガイドが果たす国際交流の架け橋としての役割を考えます。観光を通じた多文化共生や、持続可能な観光を考えます。

151 Indigenous Perspectives on Sustainability and the SDGs

M. コッター (短期大学部英文学科准教授)

In this class, we will explore the relationship between Indigenous communities and sustainability through three key questions:

1. How do the SDGs impact Indigenous people — positively or negatively?
2. What role can Indigenous knowledge and practices play in achieving sustainability?
3. How can we support and empower Indigenous communities in sustainable development?

After small group discussions, students will share their insights with the class, guided by the teacher. The class will be conducted in English.

(リクエストに応じて日本語での実施も可能)

152 小さな家のイノベーション ：日本の住宅デザイン

遠藤 太郎 (短期大学部生活創造学科教授)

日本の住宅デザインは世界から注目を集めています。欧米では、日本の住宅だけを取り上げた本が出版されているくらいです。狭い土地に建てられた日本の小さな住宅が、なぜ注目されるのでしょうか？その理由は、小さくても機能的な、そして多様で楽しいイノベーション的なデザインにあります。

この講義では、日本の建築家達がそのようなデザインを生みだしてきた歴史的背景を考え、更に、実際の住宅デザインの様々な事例から、そこに込められた工夫を見ていきます。

156 ファッション×教育で社会を変える！ CLOAK Project

西原 明希 (社会福祉学部教授)

オーストラリア・シドニー大学では、多分野の横断的なアプローチで日々イノベーションが生まれています。この授業では、ファッションデザイナー集団と科学者たちがコラボレーションし、社会の科学者への偏見を壊すことに挑んだ「CLOAK」というプロジェクトについて学びます。また、北星の学生がどのようにこの活動に参加し、どのような学びを得ているかについても紹介します。

153 Internet Marketing Basics

R.トムソン (文学部英文学科准教授)

What is the best way to sell products on the Internet? In this class, we will discuss the old and new ways of promoting products, services, and organizations using the Internet. By taking this class, you'll understand the basics of real-world SNS and social media marketing.

157 海外インターンシップの魅力 (オンライン)

西原 明希 (社会福祉学部教授)

この講義では大学生が経験しているオンラインでのショート・インターンシップについて、その魅力を紹介します。シンガポール、マレーシア、カナダ、米国、英国、オランダなどの企業のもと大学生がどのようなショート・インターンシップを行っているのかを通し、グローバルスキルとは何かについて考えてみましょう。

154 ソーシャル・イノベーションの基礎

R.トムソン (文学部英文学科准教授)

この社会的イノベーションの授業では、社会的課題に対する創造的な解決策を探求します。トピックには、社会問題の理解、起業家精神の役割、影響力のあるプロジェクトの設計、解決策のスケールアップ、成果の評価が含まれます。学生はケーススタディを分析し、プロジェクトベースの学習に参加し、イノベーションを通じて社会的変化を促進する戦略を開発します。

158 オンライン国際共修(COIL)で 世界とつながろう

西原 明希 (社会福祉学部教授)

COIL (コイル) という言葉を聞いたことはありますか？ C は Collaborative (コラボレーションで行う)、O は Online (オンラインでの)、I は International (国際的な)、L は Learning (学習) のことです。一言で COIL と言っても多様な手法がありますが、この講義では一つの事例として、大学生が取り組んできた一か月間のインドネシアの大学生とのプロジェクトを紹介します。私たちは日本の常識や欧米の一部の国での常識を、世界の常識だと錯覚しがちです。COIL は異文化理解のヒントに溢れ、今までの常識を疑うことを教えてくれます。

155 プロジェクト型海外研修への誘い

西原 明希 (社会福祉学部教授)

プロジェクト型海外研修を少しでも体験してみましょう。例えば北海道のお菓子を、オーストラリアの街のカフェに流通させたい場合、どのようなプロセスを経ることが必要でしょうか。現地の企業と英語で交渉するなど、実際に行う過程のシミュレーションをしてみましょう。また、このようなプロジェクトを通して、語学力の他にもどのような能力を得ることができるかについても皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

159 Fishburnersの魅力と活用方法

西原 明希 (社会福祉学部教授)

Fishburnersは年間1000人以上の起業家を支援する、シドニーにあるグローバルコミュニティです。起業家、投資家、メンターなど、志を同じくする仲間との多様なネットワークを提供し、新しいアイデアを形にする環境が整っています。

この講義では、Fishburnersの魅力や、実際に渡航した場合の具体的な活用方法を紹介します。また、海外で挑戦する意義や起業家マインドについても一緒に考えてみましょう。世界を舞台に自分の才能を伸ばすチャンスは、意外と身近なところにあることに気づくでしょう。

教育

160

教育学入門

～子どもから大人まで、人の育ちを考える学問の魅力とは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

教育学は、学校教育のみを対象とした学問ではなく、例えば就学前教育や生涯教育、そして国境を越えた教育であるグローバル教育など、実に大変幅広い対象を研究する学問領域です。

この講義では、「教育とはそもそも何だろうか?」「大人になるということは何を意味するのだろうか?」という問いを共に考え、そして教育学の魅力について紹介をしたいと思います。

164

アメリカの小学校では、子どもたちはどのように学んでいるのだろうか

～English LanguageとMathを例として～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私は2016年度にアメリカの大学で1年間在外研究をしていた際に、現地の小学校の授業を頻りに観察する機会に恵まれました。その経験を踏まえ、実際にアメリカの小学校の授業で使われていた小学校2年生のEnglish Language (日本の国語に相当) とMath (算数) の授業プリントを一緒に解いてみたいと思います。その際には、「論理的に考えることの大切さ」と「知識を身につけることの大切さ」の両方を重要視していることについても説明をしたいと思います。

161

紛争解決学入門

～身近な人間関係から国際紛争までを扱う学問の魅力とは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

紛争解決学 (Conflict Resolution) という学問領域は、1989年の冷戦終結後に急速に体系化されてきた学問領域です。最近では、特に欧米の大学院において紛争解決学で学位を取る人も出ており、北星学園大学の卒業生にもイギリスの大学院において紛争解決学で修士号を取得した人が複数います。紛争解決学には、国際関係論や国際政治学のみならず、実は心理学やコミュニケーション学等の知見も応用されています。理論とともに現場を大切にすることの紛争解決学の全体像について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

165

国連の創設に関わったAndrew Cordierが歩んだ道とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

Andrew Cordier は北星学園大学の海外協定校の一つである Manchester University (米国インディアナ州) の卒業生であり、1944年にアメリカ国務省に招聘されるまでは同大学の教授をしていました。実は彼は、国連憲章の起草に関わり、1945年に国連が出来てからは職員としてその創設期を支え、ダグ・ハマショールド事務総長の補佐官をしていたこともありました。国連退職後は米国コロンビア大学の国際関係学研究科の教授 (研究科長) を経て総長も務めています。Cordier の人生を振り返り、国連の歴史について一緒に考えてみたいと思います。

162

地球的に考えて地域で行動する (Think Globally, Act Locally) ために

～高校生ができることは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

地球的問題群 (global issues) と呼ばれる私たちが直面する諸課題には、環境や貧困などが山積しています。また、「グローバル化」という言葉も私たちの日常の中でよく聞かれるようになりました。

この講義では、「宇宙船地球号 (Spaceship the Earth)」と述べたKenneth Bouldingの言葉を紹介した上で、身近なところで出来ることを一緒に考えてみたいと思います。

166

大学の講義「国際教育論」を経験してみよう

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私が所属する文学部心理・応用コミュニケーション学科で、私は専門科目の一つである「国際教育論」を2年後期に担当しています。この授業では、この大学の講義の一部を実際に使用している授業プリントを活用しながら、大学で教えているように皆さんにも教えることで、文字通り大学の学びを高校の教室の中で経験して頂きたいと思います。

163

「大学の学び」の基礎となる「高校の学び」

～知識を身につける大切さ～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

この講義では、高校での学び方と大学での学び方の「違い」と「共通点」について、かつては中高の教員をしていた私の経験を踏まえた上で、皆さんに話をしたいと思います。また、大学での学びである少人数教育の「ゼミ活動」についても、私のゼミを例に取りながら紹介したいと思います。この講義のキーワードは、「知識を身につける大切さ」となります。なぜ私たちは学ぶ (学び続ける) のか、ということについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

167

未来を創る大切な仕事である 学校教員の魅力とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私は、大学教員になる前には北海道の中高で教員をしていました。そして、最近では米国インディアナ州にある Manchester Community Schools (小中高) の先生方と関わることも多く、日々子ども達のために奮闘する姿に接しては日本の学校教育のヒントを得て来ました。学校教員に限らず、どのような職業であっても仕事をすることとは大変さも伴いますが、学校教員という職業には、子ども達の成長を身近に感じられるという点が、一つの魅力であると思います。学校教員になってみたいという人が増えるような講義をしていきたいです。

168

アメリカの「国際学」のテキストから世界情勢を探究してみよう

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

地球的問題群と訳されることが多い global issues について、アメリカで使用されているテキストを参照しながら（日本語で補足説明をします）、国境を越えた諸問題について、皆さんと共に考えてみたいと思います。

169

北星学園大学の国際教育プログラムの紹介とその魅力とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

国際教育センター長として、北星学園大学の海外留学プログラムや海外で活躍する卒業生の紹介など、北星学園大学の「国際性」に関して具体例を交えて話をしたいと思います。また、私の3年間に及び海外生活の経験を通してグローバル社会で生きる意味について一緒に考えていきたいと思っています。

170

高校生にとって「問い」を立てて「探究」をする意義とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

現在は生涯学習社会とも呼ばれ、学校教育を終えても学び続ける大切さが叫ばれています。そのような時代を踏まえて、高校生の時に「問い」を立てて「探究」する意味とは何なのか、そしてそれがどのように「大学での学び」に繋がるのかということについて、地域ならびに国際社会の事例を紹介しながら皆さんとともに考えてみたいと思います。

171

大学で学ぶ意味:社会科学をとおして社会の仕組み・つながりを理解する

野本 啓介 (経済学部経済学科准教授)

大学では何を学ぶのでしょうか。学部や学科はどのように選んだらいいのでしょうか。一口に大学といっても、学問分野（学部・学科）によって内容だけでなく、その目的なども異なります。経済学、政治学、法学、国際関係論（学）などの社会科学の分野では、一言で言うと社会・世の中の仕組み・つながりを理解することが目的だといえます。

この講義では、社会科学の分野について、どのようなことを何のために学ぶのか、これらを学ぶとどのような力がついて、どのような職業と結びつくのか、他の学問分野との違いは何か、などについてお話しします。

172

大学教育とは何か？

楠木 敦 (経済学部経済学科准教授)

大学教育がどのようなものであるのか、またはあるべきかということに関しては、さまざまな見解があります。

この講義では、その多くの見解の中のひとつとして、経済学者としても有名なジョン・スチュアート・ミルの大学教育論を紹介し、具体的には、ミルのセント・アンドルーズ大学名誉学長就任講演を採り上げます。ミルの考える大学教育の理念に接することが、高校生のみなさんにとって、大学教育の意義を考え始めるきっかけになればと思います。

173

教育におけるテクノロジーの役割: 未来の学校はどのような？

金子 大輔 (経済学部教授)

現在、教育の世界ではさまざまなテクノロジー（技術）が利用されています。もちろん、コンピュータやインターネットなどの情報通信技術だけがテクノロジーではありません。テレビ、映画、黒板、チョーク、紙の教科書もテクノロジーです。実際には、教育はテクノロジーの発展と共に大きく変わってきたと言えるでしょう。

本講義では、教育におけるテクノロジーに注目して、その歴史や変遷を紹介し、また、新しいテクノロジーを利用している教育現場の事例なども参考にしながら、未来の学校の姿をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

174

ソーシャルメディアによる新しい「つながり」

金子 大輔 (経済学部教授)

有名人のブログを読む、LINEでメッセージをやりとりする、YouTubeで動画を公開する、Instagramでお気に入りの写真を知り合いに見せる・・・パソコンやスマートフォンの普及により「ソーシャルメディア」が注目を集めています。政治や社会でもソーシャルメディアの果たす役割は大きく、たとえばトランプ前米大統領のツイートなどは世界的な注目を集めました。

この講義では、急速に発展を続けるインターネットの世界の中でもソーシャルメディアに着目します。次々と登場する新しい技術は、私たちの生活にどのような影響を与えているのでしょうか。みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

175

コンピュータ動作の仕組み

佐藤 友暁 (経済学部経営情報学科教授)

現在、私達が使用しているパソコンやスマートフォンは、ノイマン型コンピュータと呼ばれ、最初のノイマン型コンピュータの設計から70年以上が経過しています。このことから明らかなように、基本的なコンピュータの動作原理はこのコンピュータの誕生時点から現在でも変わっていません。その一方、今日の機械学習のようにコンピュータで処理できることは大きく進歩しています。これはコンピュータの処理の効率化や複数の処理を可能にすることで実現可能にしました。

本講義では、コンピュータの基本的な動作の仕組みと身近な例を使用し、どのようにコンピュータが効率的に処理することを可能にしたかについてお話しします。

情報

176

情報セキュリティ入門

佐藤 友暁 (経済学部経営情報学科教授)

情報セキュリティとは、情報の機密性、完全性、可用性を維持することです。具体的には、見られては困る情報を守ること、情報の破壊や改ざんから守ること、情報を必要とするときにその情報へのアクセスが可能であることを常に維持することです。例えば、情報の機密性を維持したい場合は、インターネットからのアクセスを行えないようにする方法がありますが、これは可用性を犠牲にします。従って、情報の機密性、完全性、可用性の3点から最適なポリシーを決める必要があります。

本講義では、身近で具体的な例を使った情報セキュリティについて考えていきます。

180

女性アスリートの月経について 社会学的観点から考察する

申 恩真 (経済学部准教授)

月経という女性の身体性は、男性中心主義が根深いスポーツ界ではタブー視されてきた話題でした。しかし、近年、多くの女性アスリートが活躍されることにもない、女性アスリートの身体に関する議論が多く取り上げられるようになりました。こうした議論は、月経を主に医学的・心理学的な観点から述べており、女性アスリート個人が管理・対応すべきものとして捉えています。

一方で、実際に女子サッカーチームに入ってフィールドワークを実施してみると、女性アスリートの月経への対応は個人のものではなく、所属チーム内での秩序・規範によって左右されるのが見られました。よって、本講義では、女子サッカー選手の月経への対応を事例として取り上げ、月経を社会学的観点から考えていきます。

その他

177

困難を乗り越えて生きること

～がん体験者が教えてくれるいのちと人生～

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

2人に1人が一生のうちで一度はかかる「がん」。がんを体験した人の語りから、病いを体験するとはどういうことか、病いを乗り越えて、あるいは病いとともに生きるとはどういうことか、そこから私たちがいのちや人生について何を学ぶことができるのかについてお話します。

178

フィールドワークの魅力を知ろう

寺林 暁良 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

フィールドワークを知っていますか。教室や研究室にとどまるのではなく、実際に現場を訪れて観察したり、その地域の方々に直接お話を聞いたりする調査や研究のスタイルです。フィールドワークは、現場の「リアリティ」を明らかにします。これは、一般的に言われている「常識」を、足元から崩していく作業にもなります。

この講義では、私の研究やゼミでの活動を紹介しながら、フィールドワークの楽しさや魅力を知ってもらいたいと思います。

179

自然とはなんだろう、自然を守る とはどういうことだろう

寺林 暁良 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

自然を守ることは大事なことです。しかし、守るべき自然とはなんだろうかと考えると、実は奥深い問題です。知床半島のような原生的な自然はわかりやすいですが、一方で田んぼや里山のような人の手が入った自然をどう考えたら良いでしょうか。また、シカやクマなどの獣害問題が日本各地で多発するなかで、野生生物と人間の関係をどう捉えたらよいでしょうか。

この講義では、一筋縄ではいかない「自然」という概念について考えるとともに、それを守る（あるいはそれと付き合う）社会のありかたについても検討します。

高大ブリッジ講義(出張講義)申込書

申込日 年 月 日

送信枚数 /

高校名
連絡担当者名
TEL () — / FAX () —
MAIL @

第1希望 講義番号		講義担当教員名	
希望講義名	希望日時	第1希望	月 日()時間 : ~ :
		第2希望	月 日()時間 : ~ :
		第3希望	月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年 組 名		

第2希望 講義番号		講義担当教員名	
希望講義名	希望日時	第1希望	月 日()時間 : ~ :
		第2希望	月 日()時間 : ~ :
		第3希望	月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年 組 名		

第3希望 講義番号		講義担当教員名	
希望講義名	希望日時	第1希望	月 日()時間 : ~ :
		第2希望	月 日()時間 : ~ :
		第3希望	月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年 組 名		

使用機材(ご用意いただけるものを○で囲んでください):

パソコン(パワーポイント)	プロジェクター	スクリーン	スピーカー	OHC
黒板	ホワイトボード			

その他講義展開上の留意点:

講義上の希望事項:

2 入学前教育

「学科別入学前教育の実施」

入学試験を媒介にして高校と大学の接続を考える場合に、高校における教育・学習の到達点と大学における教育・学習の出発点を滑らかに接続することの重要性が指摘されてきました。大学において期待される学習と高校までの学習のギャップを埋めるために考案されてきたのが「入学前教育」です。各大学が多様なプログラムを用意していますが、北星学園大学もまた、これまで各学科の独自の取組として、推薦入学生を中心的な対象にして実施してきました。この実績を踏まえ、本学では2008年度実施の入試結果から本格的に「高大連携プログラム」として入学前教育を実施しております。

- ① 学校推薦型・総合型選抜で入学が決定した生徒は、その時点から本学の学生であるとの捉え方で、大学との接触を図る。
- ② この接触は、大学と生徒の関係だけでなく、同時に当該高校の教員との関係を意識した形で進める。
- ③ この関係は、「大学と生徒の関係」及び「学科と生徒の関係」の二重の形で進める。

以上のような考え方で、高大連携の一貫としての「入学前教育」を実施します。なお、詳細については12月以降学校推薦型・総合型選抜合格者に提示します。

「高大連携プログラム」に関する問い合わせ・申し込み先

入試課

TEL (011) 891-2731 (代表)

FAX (011) 894-8383

MAIL nyushi@hokusei.ac.jp

案内図



交通の便

- 市営地下鉄東西線【大谷地駅】（副駅名「北星学園大学前」）下車、一番出口を出て左手サイクリングロード通学路を研究棟（8階建）を目標に西へ徒歩5分。
- 札幌市内方面から自動車等で来学する場合、南郷通大谷地神社信号を右折し約200メートル。



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL011-891-2731（代表）